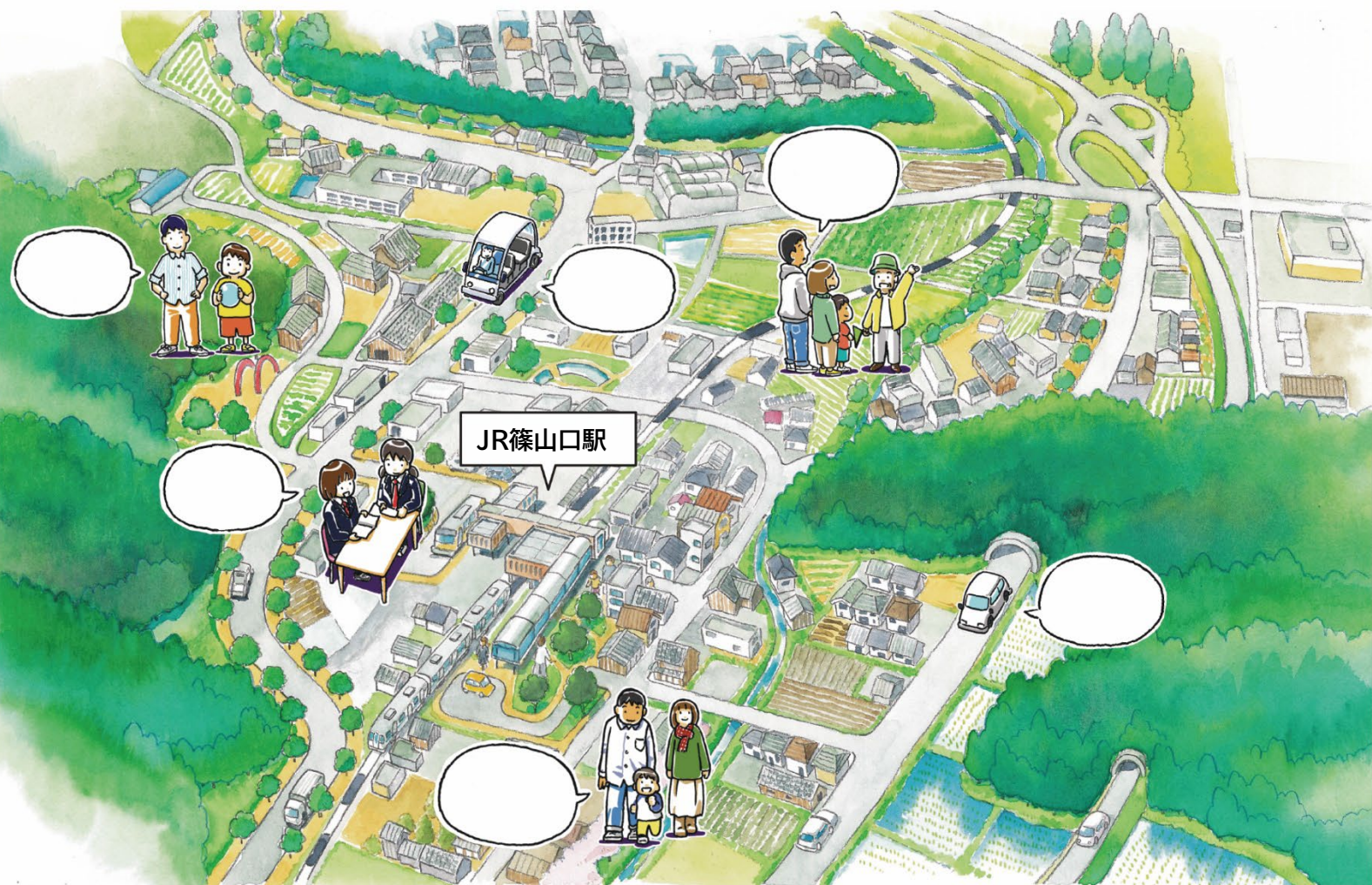


JR篠山口駅周辺 まちづくりビジョン



2024年(令和6年)8月
JR篠山口駅周辺まちづくり会議

JR 篠山口駅周辺まちづくりビジョン策定について

味間地区まちづくり協議会では、かねてより懸案であったJR篠山口駅周辺の過疎化について検討すべく、令和元年度に駅前活性化委員会を立ち上げられ、研修会や市外への先進地視察研修等を実施されてきました。また、丹波篠山市に対しては、令和元年9月に「駅周辺整備計画の策定と土地利用の規制緩和」について要望書を提出されました。

その後、令和3年度には住民アンケートを実施され、その結果と要望を市長に提出し、強い意志をもってお願いをされました。

そして、ようやく令和4年度に「JR篠山口駅周辺まちづくり会議」が立ち上がり、以後2年間の研修や会議等を経て、このたび「JR篠山口駅周辺まちづくりビジョン」が策定でき大変うれしく思っております。

今後は、1日でも早く駅周辺整備に向け事業が実施されることで、駅周辺でのお店の出店や人々の交流が活発になり、賑わいのある丹波篠山市の玄関口として発展することを期待します。

このまちづくりビジョン策定にあたり、多くの方にご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。

令和6年8月

JR篠山口駅周辺まちづくり会議

会長 松田 吉孝

JR 篠山口駅周辺まちづくり会議とビジョン策定によせて

一昨年、JR篠山口駅周辺まちづくり会議の会長に就任し、2年間お世話になりました。この2年間、まちづくりビジョンの策定のための取組にあたっては、高田先生、岡先生をはじめ、丹波篠山市役所、関係者の皆様には大変お世話になりました。また、篠山口駅マルシェ開催の際には、当日寒く、時折雨が降る天候にも関わらず、多くの方に訪れていただき、約1500人の来場者があるなど、大変盛況に、また無事に終わることができました。多くの出店者の皆さんや、篠山産業高校吹奏楽部生徒の皆さん、キッズダンスの皆さん等、多くの方々に出演いただき、本当にありがとうございました。

この2年で、まちづくり会議委員の皆さんや、ワーキンググループの皆さんのお力により、このビジョンの策定に際して、皆さんのJR篠山口駅周辺まちづくりへの気持ちが一つに繋がったのではないかと思います。

駅周辺のまちづくりの推進に向けて、この2年間で培った「人づくり・まちづくり」を今後も継承いただきますようお願いいたします。

お世話になりありがとうございました。

令和6年8月

JR篠山口駅周辺まちづくり会議

前会長 齋藤 恭博

目 次

1. まちづくりビジョンとは	1
2. 地域のまちづくりのキーワードと課題	3
3. JR 篠山口駅周辺の将来像.....	5
4. 「まちづくりの4本柱」の中身	7
5. ビジョンの実現へ	15
6. ビジョンへのエール.....	17
参考1. まちづくり会議の経過.....	18
参考2. 住民アンケート(JR 篠山口駅周辺についての思い)	22
参考3. 関西大学 学生からの提案	23
参考4. JR 篠山口駅周辺について	35
参考5. 篠山口駅マルシェ.....	37

1

まちづくりビジョンとは

これまで、JR篠山口駅は、鉄道やバス・タクシーの交通の結節点として、また、市外の方々を受け入れる玄関口となり、その周辺では道路などの基盤の整備や、戸建ての住宅地、商業施設などの立地が進められました。

一方で、まちを取り巻く環境の変化に際して、「より住みよいまち、安心して暮らせるまち、次世代に引き継げるまちを創っていきたい」という住民の皆さんの思いが高まり、まちづくりに取り組んでいくこととなり、「JR篠山口駅周辺まちづくり会議」を設立しました。

この「JR篠山口駅周辺まちづくりビジョン」は、駅周辺を中心としたまちづくりの将来像や、それを実現するための柱を、住民と行政とが協働で議論し、とりまとめたものです。

ビジョンを道しるべとして、よりよいまちの実現に向け、「官民連携」で取り組んでいきます。



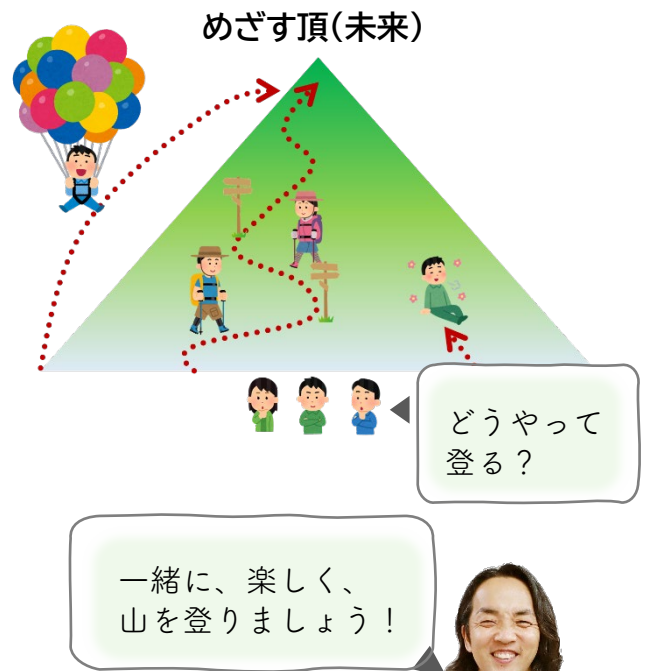
「まちづくり」って、一体何でしょうか？

「まちづくり」とは、自分たちが暮らす身近なまちを良くしていき、魅力や活力を高めていくための持続的な取組のこと。道路や公園などを整備して暮らしの環境を良くすることから、イベントや生業づくり、身近な清掃や花飾り、人と人とのコミュニケーションづくりなど、豊かな生活をするうえで必要なことを網羅するものです。

「ワクワクすること」「おもしろそうなこと」「やってみたいこと」を想像することを大切にしましょう。問題や課題から考えるのではなく、その先にある未来、例えるなら山の頂上に目を向けてみましょう。

めざすべき頂がみえてきたら、どんな登り方をするのが良いのか？必要なものは何か？を考えていくと良いでしょう。

こう考えると、まちづくりと山登りは、似ているのかもしれないね。



わたしたちが大切にしたいまちづくりのスタンス

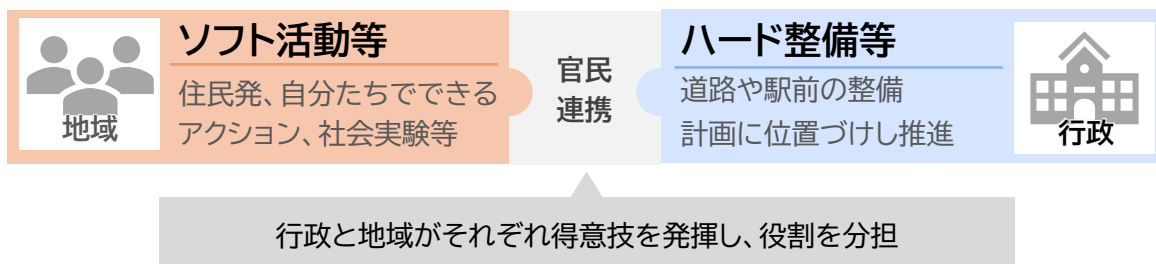
- ✓ いいと思ったことはまずみんなでやってみよう……実践主義、プロジェクトベース
- ✓ 今あるものをおもしろがって、大切にしよう……価値把握、地域理解、持続可能性
- ✓ JR 篠山口駅周辺の「ならでは」を常に考えよう……独自性、差別化、ポジショニング



アドバイザー
兵庫県立大学
高田先生

なぜ、「官民連携」が、必要なのでしょうか？

これまで、「まちづくり」は行政が主に担ってきた面がありますが、より地域の課題が複雑になり、住民などが主体となることができること、行政でできることを上手く連携し、双方の知恵やノウハウを発揮しながら、主体的にまちづくりに取り組んでいくことが大切になってきています。



2

地域のまちづくりのキーワードと課題

「JR篠山口駅周辺まちづくり会議」の「ワーキンググループ」での議論から、駅周辺地域の様々な魅力と課題を踏まえて、まちづくりで充実させる暮らしの8つの要素を設定し、議論を重ねてきました。その結果、様々な地域の可能性が見えてきて、その実現に向けた課題(ギャップ)も浮き彫りとなりました。

楽しむ

地域の自然や歴史の価値を掘り起こし、大切にしながら、駅前の空間を活用して、平日も休日もみんなが楽しめるようにする。

滞在する

丹波篠山に住む人、訪れる人にとっての拠点として、駅中・駅前の魅力的なスペースでゆっくり滞在できるようにする。

課題

住民にとって駅が日常の拠点になっていない。駅の乗降客数も減少している。滞在できる場所になっていない。

移動する

車を持つ人も持たない人も、市内外へ快適に移動できるようにする。

安心する

子どもから高齢者まで、どのような世代、どのような立場の人も、いつでも、まちなかを利用する時に心から安心できるようにする。

課題

駅東側の交通がスムーズでない、都市計画道路の整備が進んでいない。駅の利便性が活かされていない。

住まう

地区全体の住宅ストックを活用しながら、丹波篠山の魅力的な環境のなかで、子どもから若者、子育て世代、高齢者まで、みんなが快適に住めるようにする。

働く

地域内外の様々な人が、丹波篠山の環境や資源を活かした新しいことにチャレンジしながら働けるようにする。

課題

駅東側の街道沿いを中心に空き家・空き地が増えている。国道沿いに魅力的なお店が立地していない。小さな商いなど働く場が生まれていない。

子育てする

駅前の利便性ある施設、豊かな自然環境と公園を活用しながら、地域での助け合いのもとに、のびのびと子育てできるようにする。

学ぶ

丹波篠山の自然と文化に触れながら、駅に近い環境で、地域住民だけでなく、地域外の人を受け入れながら、誰もが学び続けられるようにする。

課題

まちづくりにおいて、子育て層や学生などの顔が見えにくくなっている。

2年間、さまざまな人たちの意見を聴いてきましたね。住民、子育てをしているママ、高校生、大学生、専門の先生、などなど。おかげで、いろんな可能性が見えてきたように思います。

アドバイザー
高田先生から

<ワーキンググループでの主な意見>

- ・篠山口駅でのマルシェなどを通じて、駅周辺の地域の交流が増えてほしい。駅周辺を市民の皆さんが居心地のいい空間と思えるように。
- ・駅の西側では立ち寄った観光客や市民の方がフラッと参加できるように、東側ではターゲットを絞ったイベントなどを開催しては。
- ・自然を守り、育てながら、生活に不便のない田舎を目指したい。

柱①

のどかさ と 賑やかさが調和する 篠山口の「まちの駅」をつくる

- ・篠山の豊かな緑に囲まれて、駅中・駅前でゆっくり過ごす
- ・平日も休日も、駅の西でも東でも、丹波篠山のいろいろな魅力に触れて楽しむ

柱②

歩いて安全、バス・電車で楽々、 最新モビリティもウェルカムなまち をつくる

- ・車を持つ人も持たない人も、市内外へ快適に移動できる移動の結節点をつくる
- ・駅前を楽しく歩き、車がスムーズに流れる道路ネットワークを整備する
- ・新しいモビリティ技術は積極的に受け入れ、移動手段自体をまちの魅力にする

柱③

こども・若者の「将来も住みたい」 という思いをカタチにする

- ・地区全体の住宅や土地のストックを活用しながら、子育て世代から高齢者までが住み続けられる質の高い住まいを確保する
- ・地域内外の様々な人が、丹波篠山の環境や資源を活かした新しいことにチャレンジしながら働けるようにする

柱④

まちのみんなで支え合い、 教え合い、学びあうしくみをつくる

- ・駅前の利便性ある施設、豊かな自然環境と公園を活用しながら、地域での助け合いのもとに、のびのびと子育てできるようにする
- ・地域の学生の自主的な学びの場を創出する

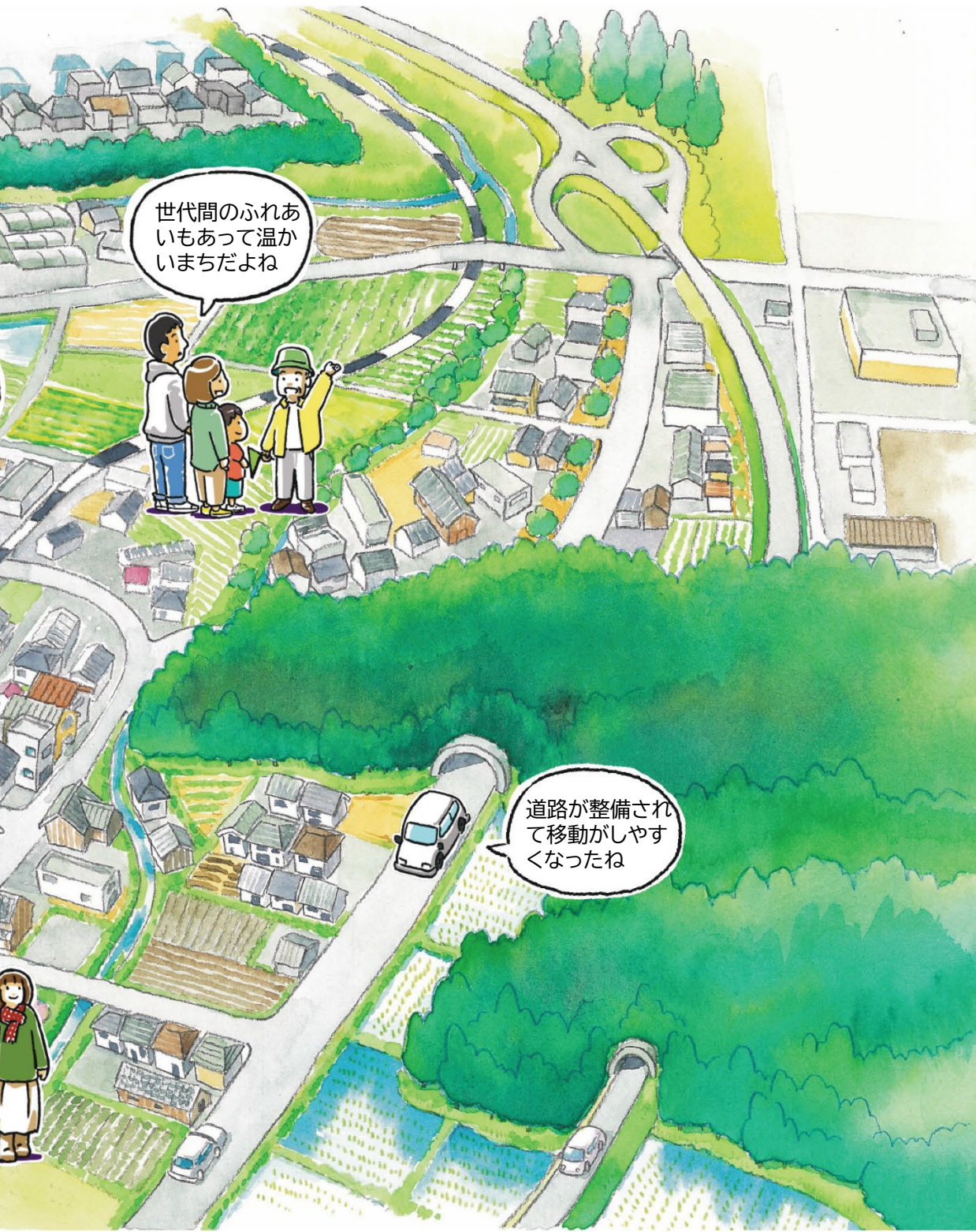
- ・道路空間の整備と魅力づくりで、歩いて楽しい(ウォーカブルな)駅前をしたい。
- ・交通の誘導を上手くやっていると良い。
- ・自動運転車など、新しい技術も取り入れていけるのでは？

- ・外から来た人は、ずっと住んでいる人に見えない魅力を感じているのでは。
- ・駅周辺の物件などを調査して、持ち主(オーナー)と話し合ってみては。
- ・大切なのは思い立った人が自分で何かを始めてみる(やってくれる人を待たない)。

- ・お母さんたちが集まりたい場所をつくってほしい。子育てをする世代に選ばれる場所にしてほしい。
- ・自然豊かでゆっくりできる、都会より田舎が好き、当たり前にあ挨拶する地域だから将来も丹波篠山市に住みたい。

山に囲まれた自然豊かでのんびりとした雰囲気、昭和レトロ(懐かしさ)なまちなみなどを資源として、利便性と快適性を楽しむ人びとの交流の拠点として、最先端・ハイテク(最新技術)なアイデア・提案を採り入れた駅周辺をめざしていきます。





世代間のふれあ
いもあって温か
いまちだよ

道路が整備され
て移動がしやす
くなったね

(イメージ図)

柱①

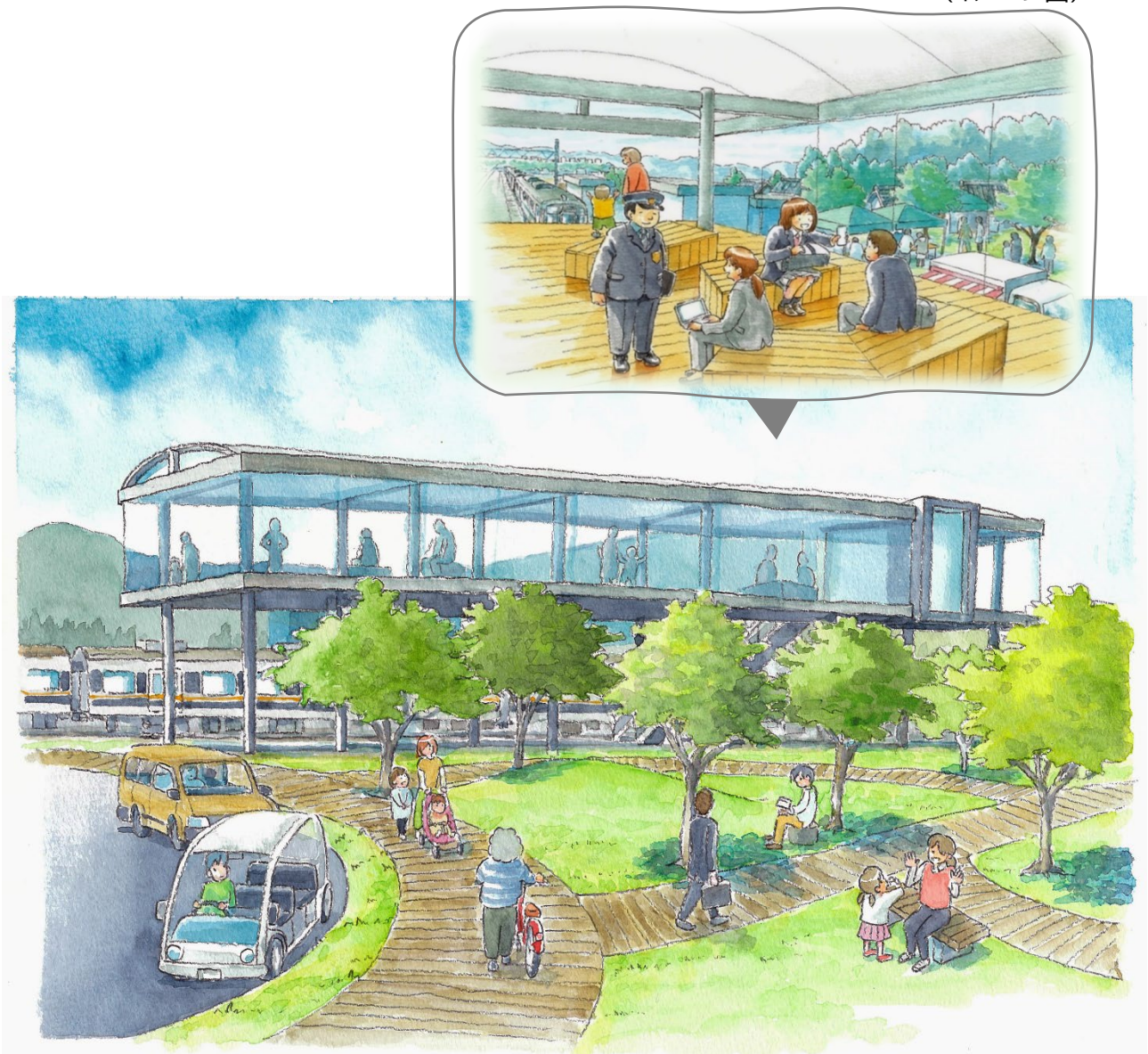
のどかさと賑やかさが調和する篠山口の「まちの駅」をつくる

楽しむ

滞在する

- JR篠山口駅前を、地域の方々や学生らがゆっくり過ごせて、まちの魅力に触れられ、賑わいや交流を生み出すとともに、城下町へいざなう、新しい価値を生み出す「まちの駅」（駅が単なる移動の結節点としてだけでなく、駅周辺において様々な人々の活動や交流の場、コミュニティスペースとしての機能を併せもった駅）にしていきます。
- 関大生の提案や、篠山口駅マルシェでの社会実験などを踏まえ、「篠山イノベーターズスクール」「丹波篠山スクエア」の取組などとも連携しながら、駅前でイベントを定期的で開催したり、学生たちの待ち合わせスペースとしたり・・・様々なアイデアが官民で実現できる場所にしていきます。

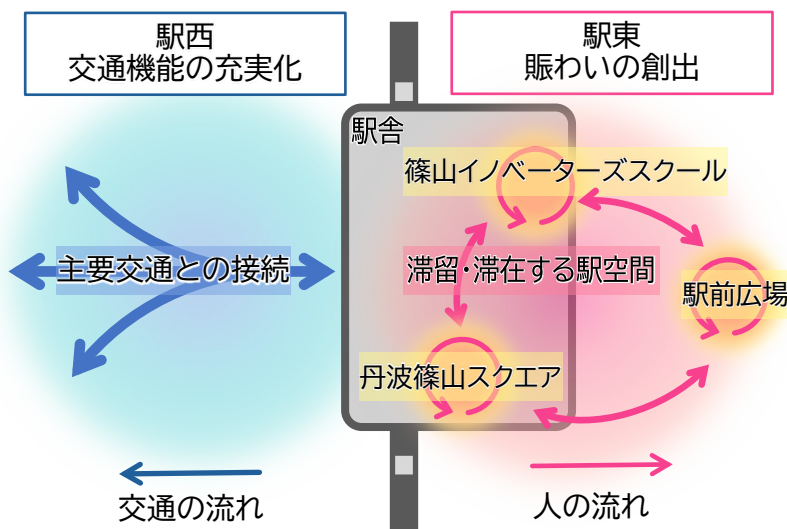
(イメージ図)



実現に向けて

【ポイント①】「まちの駅」としての リニューアル

現状のJR篠山口駅は通勤・通学時に使われ、日常生活では通過する場所でしたが、駅舎や駅前空間をリニューアルし、多様な人が滞留・滞在し、日常的な交流の場となるようなコミュニティ活動や交流の機会があふれ、観光に必要な情報やサービスが得られ滞在できる、駅とまちがつながる「まちの駅」となるよう取り組みます。



【ポイント②】駅の西側と東側を 適切に機能分担

駅周辺空間を適切に機能分担し、便利で過ごしやすい駅周辺空間を目指します。

西側は、交通機能の充実を図り市民や観光客が駅を通じて快適に地域や丹波篠山を往来できるようにします。

東側は、地域や丹波篠山の魅力に触れながら、賑わいや交流を生み出す空間にします。

【ポイント③】丹波篠山の風景と調和した駅前空間

丹波篠山の自然や四季折々の様子、農の豊かさを感じ取れるような、風景になじむ駅舎・広場空間により、駅からの山への眺望を守るなど、風景と調和した駅前空間にします。



関西大学学生の提案内容

「森の駅 篠山」

コンセプト:篠山の自然を見せる

篠山口駅舎のコンセプトである「篠山の山々を見せる」を東口でも表現する提案です。

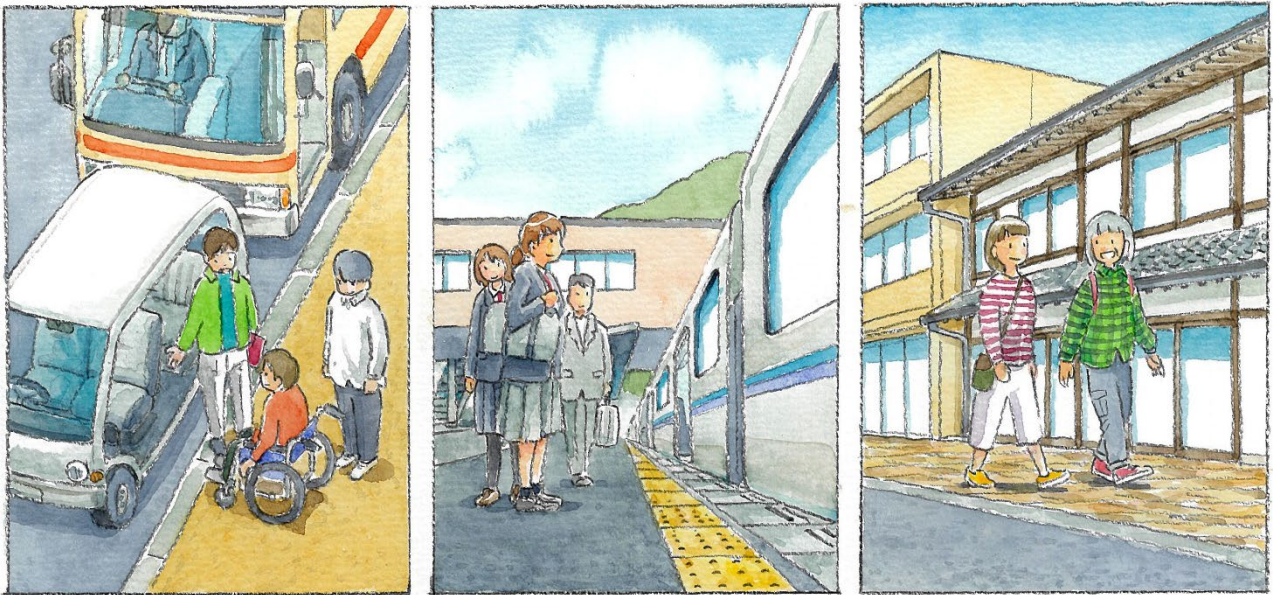
駅前広場空間を、緑豊かな場所に変え、観光客や市民が山々を見ながら滞在出来る空間を提案しています。

(P.27 参照)



- JR篠山口駅は交通の結節点として、電車やバス・タクシーなどが引き続き便利で安全に利用できるようにするとともに、自家用車を持たない人でも歩きや自転車移動したり、自動運転や小型モビリティなどもまちの魅力づくりに積極的に採り入れて、マルチな交通手段で利用できる駅前づくりに取り組みます。
- 特に駅の東側は、道路基盤が十分でない点を鑑みて、駅前を楽しく歩きつつ、自動車がスムーズに通行できるような道路ネットワークの整備に取り組みます。

(イメージ図)



まちづくり会議で勉強した、参考となる事例 ウォーカブルな駅前づくり／新たなモビリティ

最近では、「ウォーカブル」(歩いて楽しい)をキーワードに、自動車から歩行者中心のみちづくり、駅前づくりが盛んにおこなわれています。歩いて楽しいまちを創ることで、歩行者中心の賑わいや交流、活動が生まれやすくなるとともに、環境負荷の低減にも役立ちます。

また、地域の交通手段も新たな技術がどんどん生まれており、自動運転やシェアモビリティなどが全国の各地で実験されています。



神門通り(島根県出雲市)の様子：
舗装デザインにより、ウォーカブルな空間が実現

実現に向けて

ポイント① 駅前の歩車の分離

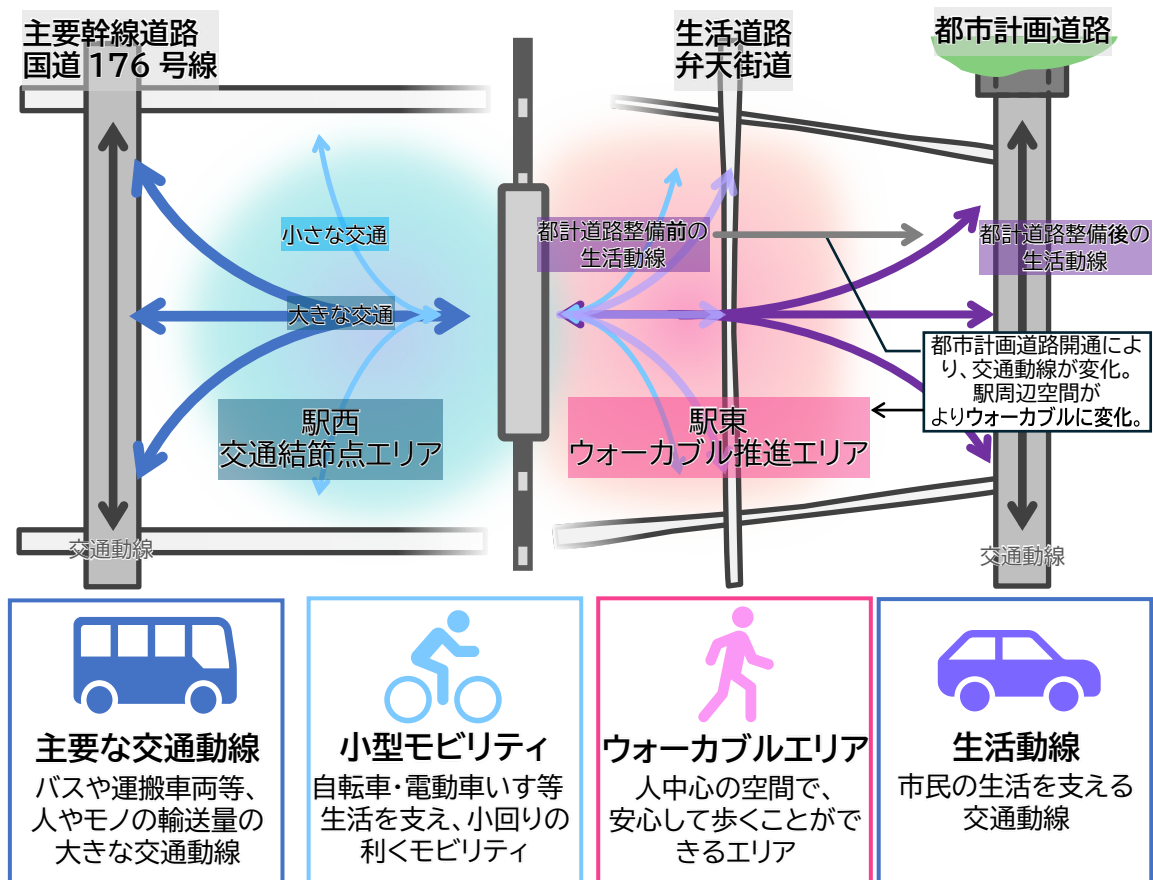
自動車等の動線は主要幹線道路(国道176号線)と、整備予定の都市計画道路に誘導し、駅周辺の駅前広場や弁天街道等は歩きやすくなるようにし、歩車分離を進めます。これにより駅前の歩いて楽しい(ウォーカブル)まちづくりが進めやすくなります。

ポイント② 多様なモビリティの導入による利便性向上

自転車やキックボード、グリーンスローモビリティ等、多様なモビリティを導入し、生活を支える移動手段を確保します。これによって市民や観光客もスムーズに移動できるようになります。

ポイント③ 道路ネットワークの充実化

計画されている都市計画道路の整備を推進することにより、駅から幹線道路への道路交通の円滑化を図ります。



関西大学学生の提案内容

チャリのベ

篠山口の駅前を、自転車をテーマに市民や観光客の滞留スペースや賑わいの場を駅前広場に作ることを提案。自転車に関連する観光商品やサービスによって、駅前の活気や地元の仕事を作ることを目指した提案です。

駅前の既存施設(タクシー会社)のリノベーションや新設の建物が駅前広場を囲むような構成で設計提案をしています。(P.26 参照)



- ・ 駅に近い利便性や、公園が多いという利点を最大限生かして、子育て世代から高齢者までが住み続けられる質の高い住まい(丹波篠山の地域産材を使った、より長く、居心地よく暮らせ、住み替えや働く用途などにも対応できる等)を確保するため、地域に加え、地主・家主や不動産事業者や市とも連携して、良い住まいが流通する仕組みづくりや、学生らと連携したリノベーションなど、空き家や空き地の活用に取り組みます。
- ・ マルシェなどをきっかけに、駅周辺で、このまちならではの取組として、住民や訪れる方々のニーズにこたえた「小さな商い」を実践できる場所を作ったり、テレワークや一時滞在ができる場所を作ったり、幹線道路沿いに店舗等を誘導したり、駅周辺で「働く場所」を生み出すことで、こども・若者が「将来も住みたい」という地域をつくっていきます。

(イメージ図)



ワーキンググループで勉強・視察を行った、参考となる事例 西田辺、昭和町(大阪市阿倍野区)のエリアリノベーション

西田辺、昭和町は、古くからの長屋が各所に残るエリア。その価値に着目し、「上質な下町」をコンセプトに、まちの不動産屋や都市計画家、建築家などが多彩に連携し、エリアの価値を高める活動を実践しています。近年様々なジャンルの若い店主が開業し、まちに元気や交流を生み出しています。



事例視察の様子：
地元不動産屋の方による案内の下
知見を広げた。

実現に向けて

ポイント① 空き家・空き地を暫定的に活用し、マルシェ等のイベント実施

空き家や空き地等で、マルシェなど人が賑わうイベントを暫定的に企画・実施することで、駅周辺の楽しい空間を官民連携で創出し、活用に向けた気運を高めます。

ポイント② 商業利用できる物件を増やし、雇用を創出

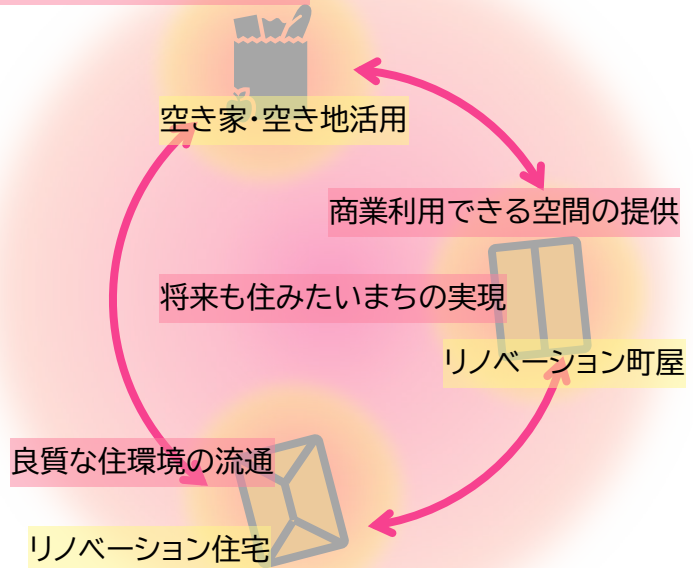
商売が未経験な人でも商売に挑戦しやすい環境を整備します。空き家等をリノベーションする等、有効活用をし、小さな商売ができる物件を増やします。

ポイント③ リノベーションで良質化された建物の住宅流通

駅周辺の空き住居をリノベーションし、便利で子育てしやすい家や丹波篠山らしさの感じられる家等、良質な住宅を流通させます。



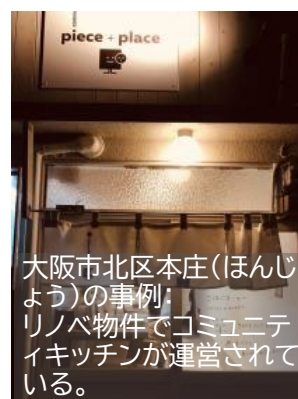
マルシェ・イベントの実施



まちづくり会議で勉強した、参考となる事例

資産をまちの資源に～二代目オーナーの不動産ビンテージ物件活用～

建物の社会的寿命や資産価値の減少等様々な要因によって、古い建物はスクラップされ、平凡なマンションが建ってしまいます。今あるものに、「価値づけをする人」、オーナーだけでなく、仲介者や借り手を見つけることが重要です。「不動産ビンテージ」として価値づけ新たな価値を生み出す動きが、まちを面白くしていきます。



- 皆が集いやすい場所にある駅舎や広場、便利でありながら豊かな自然環境や公園、施設など、駅周辺は子育て層や高校生にとっての資源が多くあります。これらをまちづくりに活用して、子育て層や高校生、身体の不自由な子どもや親も含めて、みんながまちの中心にいて、便利さを楽しみながら、のびのびと時間を過ごしたり、子育てができるような魅力ある地域づくりに取り組みます。
- 学生や若者らの「地域に役立ちたい、将来は丹波篠山に暮らしたい」という思いを応援し、いきいきと学び、活動できるような土壌やフィールドを作り、大人も学びながら、地域をより良くするチカラにしていきます。

(イメージ図)



まちづくり会議で勉強した、参考となる事例 学生の意見やアイデアを実現するまちづくり

今回のまちづくりの検討の過程で、関西大学環境都市工学部建築学科住環境デザイン研究室の学生の皆様に、多様な駅周辺まちづくりのご提案をいただきました。

若い方々の意見や提案を柔軟に採り入れながら、まちづくりや活性化にいかしていく取組は全国各地で行われています。JR 篠山口駅周辺でも、こうしたつながりを今後も継続していくことが望まれます。



関西大学 学生による篠山口駅周辺の活用提案時の様子

実現に向けて

ポイント① 安心して子育てができる環境整備

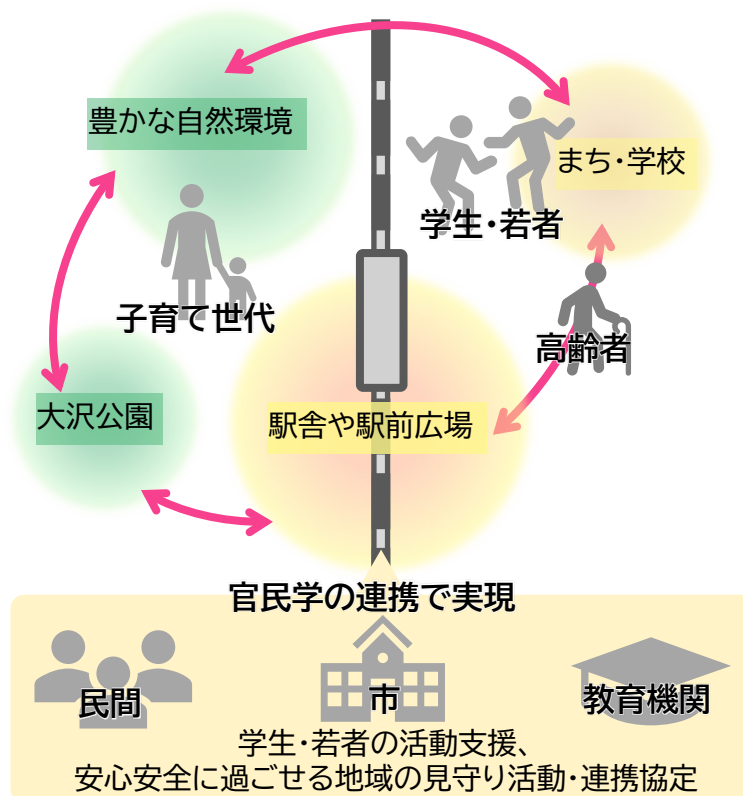
駅周辺空間を親子が過ごしやすい空間に整備します。また、大沢1号公園など地域にある公園も積極的に活用し、ハード面だけでなく、ソフト面でも子どもの活動を見守る仕組みづくり等、安心して子育てができる環境をつくります。

ポイント② 学生や若者の活動を応援できる体制整備

篠山口駅のイノベーターズスクールなどと連携し、学生や若者が積極的に自由に活動できる仕組みや場の整備を、市や教育機関、民間企業と協働で取り組みます。

ポイント③ 自然の豊かさや農業のありがたさを多様な人が学べる環境整備

丹波篠山の豊かな自然環境を活かした自由な学びができるように、公園や広場、農地の使い方を官民連携で検討します。



まちづくり会議で勉強した、参考となる事例

おとわの森子育てママフィールド petit prix (プチプリ)

petit prix (プチプリ)は2017年に丹波篠山市内の保育園跡を活用して、現役の子育てママが「ママ目線」で運営を始めた団体です。

自分たちが子育てを経験した中で味わった「孤独」や「悩み」をもとにイベントの開催を通して、一人でも多くのママの気持ちに寄り添えるような、“petit prix=小さな贅沢”を過ごせる空間を目指しています。



子育てママらによる活動の様子
出典:プチプリ ホームページより
<https://petit-prix-city-sasavama.jimdofree.com/>

5

ビジョンの実現へ

将来像やまちづくりの4本柱を実現するために、地域・住民(まちづくり会議)、事業者、行政が官民で連携して取り組んでいくこととします。

地域・住民

まちづくりの主体・主役であり、駅周辺地域を良くしていくためのまちづくり活動を継続していきます。住民の方々の理解や機運を高めながら、自分たちでできること、ソフト面での活動を中心に取り組みます。

行政

ビジョンをもとに、市の計画に位置づけ、地域・住民と連携しながら主にハード面での整備・事業化や、施策づくりに取り組みます。また、地域・住民主体のまちづくり活動を支援します。

地域・住民



事業者



・市内外的事業者
・地域の事業者
(鉄道事業者、
沿道事業者など)

行政



・丹波篠山市
・兵庫県



「まちづくり会議」

学生・若者など応援隊



事業者

地域・住民や行政と連携し、まちづくりや事業への協力・参画・連携とともに、事業活動を通じ地域に賑わいを創出するなど、まちづくりを伴走型で支援します。

学生・若者など応援隊

住民らだけでなく、学生・若者や専門家など外部の応援団も参加してもらい、指示やアドバイスを取り入れながら、まちづくり活動に取り組みます。

まちづくり会議

まちづくりに関わる方々が参加し、地域・住民と行政らが意思疎通を図りながら、ビジョンの実現へ取り組んでいく組織として、運営していきます。また、議題に合わせた会議運営を行い、まちづくりを推進します。

【オープン会議】

会議を市民にオープンに運営します。広く意見を取り入れる役割があります。

【プロジェクト制】

有志メンバーを募り、プロジェクト単位で会議を運営します。まちづくりの実現性・スピード感を高められます。

いよいよ、実践に移ります。
 やりたい、かなえたい思いを大切に、
 住民と行政、事業者、応援団が、力を合わせてい
 けるか。これからは本番ですよ。

アドバイザー
 高田先生から

実現に向け当面、取り組んでいくこと

【方針】

ビジョンをもとに、まちづくりの主体・主
 役として、継続したまちづくり活動に取り
 組みます。

【取組内容】

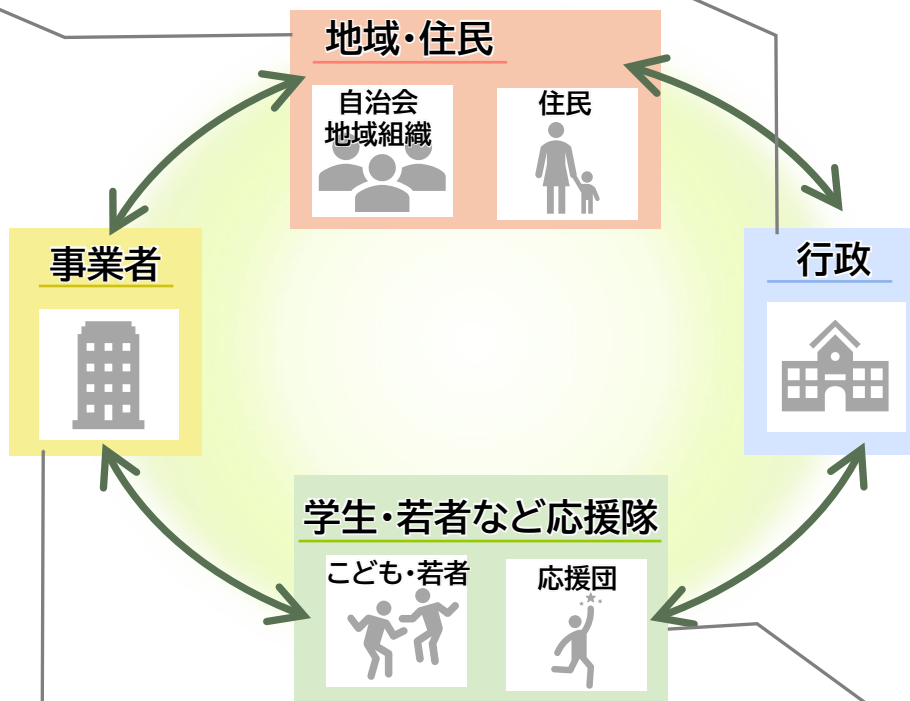
- ・篠山口駅マルシェの継続
- ・魅力の発信、まち歩きなど
- ・地域・住民での話し合い

【方針】

市の計画(都市計画マスタープラン等)との整合を図り
 ながら、年次的に下記を実施します。

【取組内容】

- ・駅周辺の事業化や整備
- ・未整備の都市計画道路の整備促進(西吹大沢新線の
トンネル化)とともに、必要性の低い路線の見直しの
検討
- ・まちづくり会議主体の活動等への支援のしくみづくり



【方針】

地域事業者は地域・住民や市の働きかけに応じ
 ながら、下記の取り組みで連携などを促します。

【取組内容】

- ・駅周辺の事業化や整備、誘導にかかる協議・調
整等
- ・まちづくり会議主体の活動等への参画、支援ま
た、市内外の事業者にも駅周辺や空き家の活
用などを通じた事業面での参画

【方針】

外部からの応援団として、篠山口駅周辺のま
 ちづくりに引き続き関わっていきます。

【取組内容】

- ・部活やゼミなどでの取り組み
- ・コーディネーターなどによる助言、
検討の参画、支援

兵庫県立大学 高田 知紀 先生から

このビジョンには、篠山口駅周辺のまちに対する「多様なまなざし」が詰まっています。ビジョン策定の作業に参加した人は、ずっと住んでいる人、移住してきた人、仕事でかかわる人、他の地域に住んでいるけど篠山が好きの人など、多岐にわたります。また、現役の高校生や大学生から、子育て奮闘中の人、バリバリ働いている人、定年してゆっくり暮らしている人まで、幅広い世代の声が集まりました。そのような多様な人びとの「まちをこうしたい！」という想いが、「JR 篠山口駅周辺まちづくりビジョン」というひとつの形になったのです。



大切なのは、どのようにこのビジョンを使いこなすかということです。JR 篠山口駅周辺のまちにかかわるすべての人びとが、自分たちの手でまちをつくりかえていく。そのような活動をサポートするためにまちづくりビジョンがあります。それは決してみんなの負担になるようなことではありません。むしろ、このまちに暮らすことの豊かさを実感するきっかけをもたらしてくれます。自分たちのまちを、自分たちの手でつくって変えて使い込んでいくことは、とても楽しいことなので、まちの未来に希望をもち、日常を積極的におもしろがってみましょう。自分たちのまちを肯定すれば、きっと何かしたくてウズウズしてくると思います。仲間をみつけて、小さなアクションを積み上げることで、まち自体も、まちを眺めるまなざしも劇的に豊かになっていきます。

関西大学 岡 絵理子 先生から

JR 篠山口駅周辺まちづくり会議のみなさま。まずは、お詫びです。突然やってきて、皆様のこれまでの考え方、議論の過程も知らず、私の思うことをお伝えしました。ごめんなさい。私は、丹波篠山市の玄関口である JR 篠山口駅のことを、ここに集まっておられる方々で考えたり行動したりするのは、あまりにも荷が重すぎると感じていました。これは日本中どここのまちづくりでも感じることです。なんとかしなきゃと思っている方々と、なんとかしなきゃと思っている行政と一緒にタッグを組んで初めて未来に進むことができるのです。そのためには、まずこんなまちになればいいなあ、こんな場所があればいいなあというつぶやきを、目に見えるものにして、多くの人たちで共有することが第一歩だと思っています。だから学生たちに、駅の将来を考えて提案してほしいとお願いしました。学生からどんな案が出てくるかは、当日までわかりませんでした。どのグループも一生懸命調べて、そしてこうだったら「自分がここに来たい」という空間を、図面と模型で見せてくれました。これからは、この未来像をみなさんと自分達の将来像としてブラッシュアップし、それぞれの役割を果たして実現してほしいと心から思っています。私も、そして学生たちもこれからもずっと JR 篠山口駅を見守って、楽しみにしています。



まちづくり会議の経過

JR 篠山口駅周辺まちづくり会議は、JR 篠山口駅周辺における地域課題の解決をめざして、駅周辺の魅力向上及び賑わいの創出に向けた取り組みを推進することを目的として、令和4年4月に設立しました。

JR 篠山口駅周辺まちづくり会議 委員名簿

(敬称略)

団体名等	職名	氏名	備考
味間地区まちづくり協議会	会長	松田 吉孝	会長
		溝端 義男	前副会長 令和6年4月27日まで
	副会長	森 豊彦	
		田中 和成	令和4年5月28日まで
味間地区自治会長会	会長	石塚 正明	副会長
	元会長	齋藤 泰博	前会長 令和6年4月27日まで
	副会長	河南 秀樹	
中野自治会	自治会長	西田 正志	
大沢自治会	自治会長	小野田 芳史	
		杉本 克治	令和4年9月30日まで
弁天自治会	副自治会長	橋本 浩司	
大沢新自治会	自治会長	小谷 和徳	
		小林 二夫	令和6年3月31日まで
杉自治会	自治会長	井上 尚和	
西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部兵庫支社	課長代理	岡田 勝	
丹波篠山市商工会	副会長	大前 裕樹	
一般社団法人 丹波篠山市観光協会	事務局長	北川 敦雄	
一般社団法人 丹波篠山キャピタル	理事	瀬戸 大喜	
市民生活部地域振興課	課長 (丹南地区振興担当)	三宅 芳樹	
まちづくり部地域整備課	課長補佐	古谷 重樹	
	係長	中川 敬市	令和6年3月31日まで
	課長補佐	酒井 正幸	令和5年3月31日まで
まちづくり部地域計画課	課長兼景観室長	山下 哲也	事務局
	景観専門員	横山 宜致	事務局
	副課長兼係長	依藤 智広	事務局

(※令和6年8月末時点)

JR 篠山口駅周辺まちづくり会議 ワーキンググループメンバー名簿

令和6年3月末時点
(敬称略)

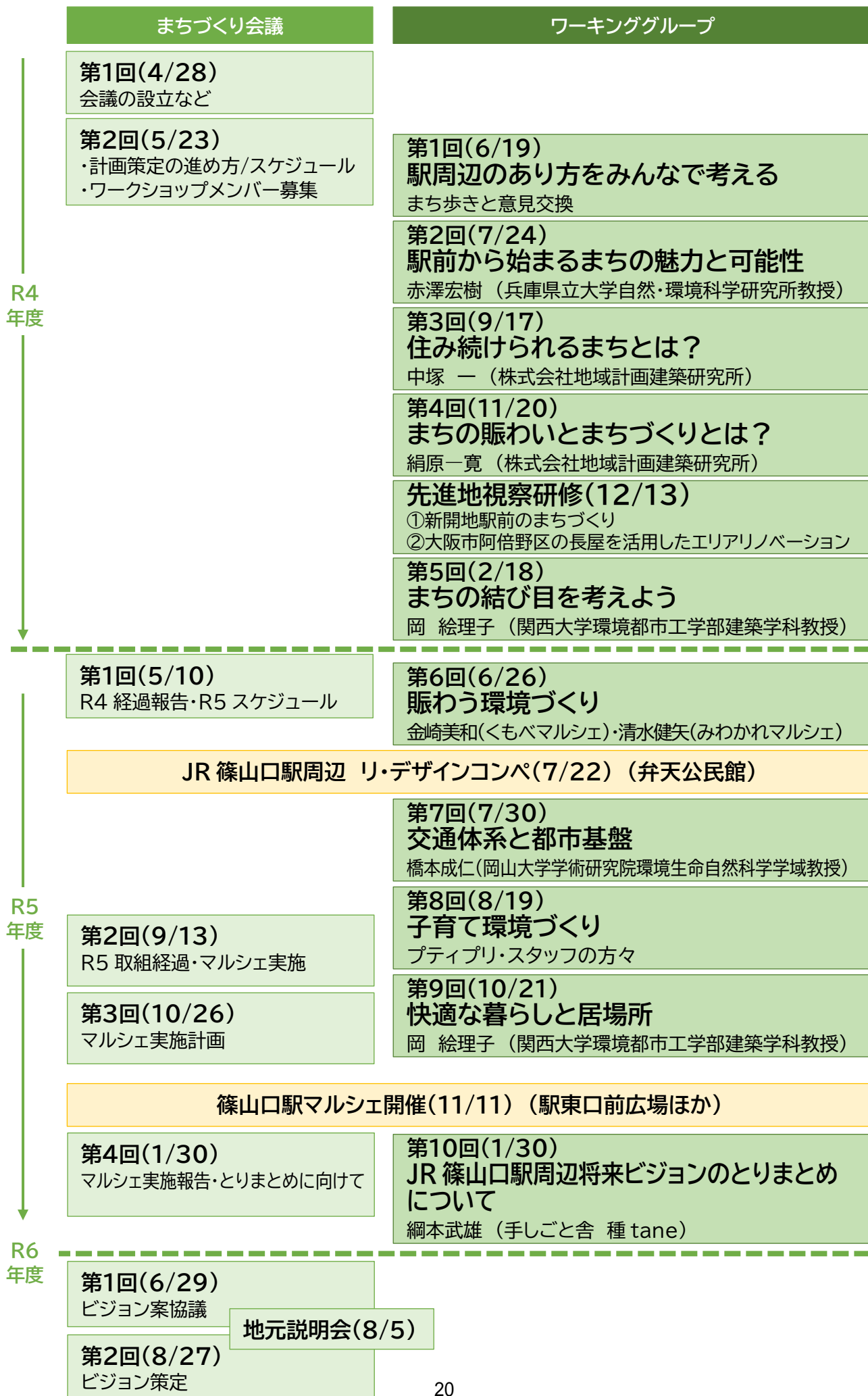
団体名等	氏名	備考
味間地区自治会長会	齋藤 恭博	JR 篠山口駅周辺まちづくり会議会長
中野自治会	西田 直美	
大沢自治会	前川 弥千宏	
大沢自治会	古杉 和広	
弁天自治会	石塚 正明	自治会長
弁天自治会	小前 喜代子	
弁天自治会	波多野 宏和	
大沢新自治会	岸本 高明	
大沢新自治会	金井 拓男	
杉自治会	上山 信也	
杉自治会	古本 繁樹	
住吉台自治会	渡辺 剛夫	
丹波篠山市商工会	中村 相石	
若者たちでまちづくり会議	北村 胡桃	
地域おこし協力隊(OB)	梅谷 美知子	
丹波県民局県民交流室	宇野 真由美	
丹波篠山市市民生活部地域振興課	三宅 芳樹	
丹波篠山市まちづくり部地域整備課	矢持 高士	
丹波篠山市まちづくり部地域計画課	足立 裕也	
丹波篠山市まちづくり部地域計画課	藤本 隼輔	

JR 篠山口駅周辺まちづくり会議は、多くの
人と共に、まちづくりを検討してきました。

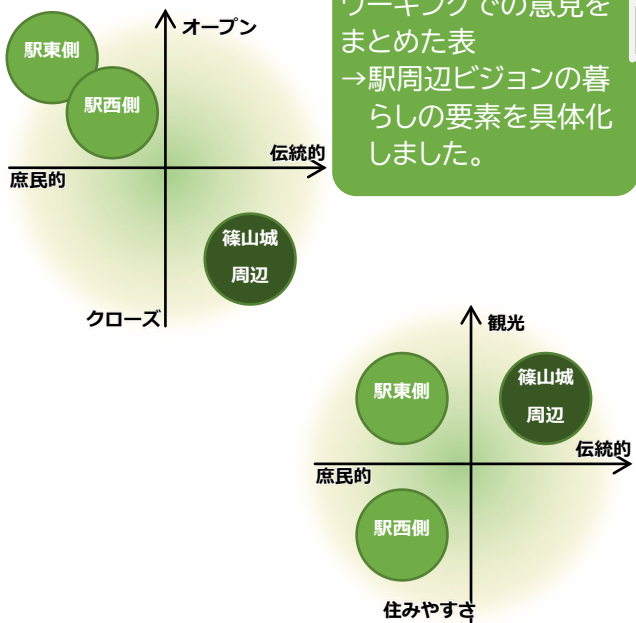


各回のテーマに沿ってワークショップを
行い、ビジョンを検討しました。





検討内容(抜粋)



まちづくり検討フレーム	
暮らしの要素	具体的な方策（意見）
楽しむ	お祭り・イベント、歴史資源の保全・活用、自然資源の保全・活用
滞在する	訪れる人・住む人の魅力的な滞在
移動する	地域内交通の充実、鉄道利用の促進
安心する	交通安全・防犯・防災への取組
住まう	住宅ストックの丹波篠山らしい活用
働く	丹波篠山の環境や資源を活かした活動・起業の支援
子育てする	子育て環境、地域によるサポート
学ぶ	特色のある教育、生涯学習への取組

話し合いの様子は、ニュースにまとめ共有してきました。

JR篠山口駅周辺まちづくり会議 ニュース <2023年度第4号>

2023年 8月

おとわの森子育てママフィールド petit prix（プチプリ）にて「子育て環境づくり（子育てする・学ぶ）」をテーマに意見交換を行いました。

JR篠山口駅周辺まちづくり会議では、昨年度出し合ったテーマを深掘りするため、テーマごとに講師を招いたワーキンググループを開催しています。

第8回となるワーキンググループは、2023年8月19日（土）13:30-16:00、おとわの森子育てママフィールドにて、プチプリ・スタッフの方々からの話題提供をもとに、JR篠山口駅周辺の「子育て環境づくり」について意見交換を行いました。

今回も高校生の方が参加くださり、活発な意見交換が行われました。

話題提供：プチプリの紹介

ママの声から・・・

- ママであり続けるためちょっと一呼吸
- 子どもも親もリラックスできる場や機会
- 子育て、社会に取り残された感を抱えるママのために
- つながりたい、悩みを共有したい
- 環境の子育て世代で交流
- 他のママと一緒に子育ての楽しさも楽しも共有
- 活動に参加することでパワーアップ

活動で大事にしていること

- 「丹波篠山で子育てしてよかった」と実感できるように
- 子育てで心ゆるせる仲間をつくる
- 自分を好き、笑顔が輝く
- ママが「心の余裕」をもてる地域社会をつくる

プチプリについて
知りたい方はこちらへ！

プチプリの活動

- 子どもの年齢に応じたルーム（施設）を配置
- 家庭が活性化されて子どもが遊びやすくなった
- 高校生が卒業制作で東屋を製作し、お母さんの休憩場にも
- お母さんたちが体操、裁縫、食事などできるルームも
- ヨガやジムなど多様なイベントで楽しみと健康を推進
- ママニティどうしの交流、子育てについての勉強会
- ママと子どもがつながる「つながる一ひら」
- 同級生のママどうしで悩み相談、プレ保育の意味合いも
- 第1子育てるお母さんと赤ちゃんのためのイベント
- 発達や食育、性、インクルーシブなどについて神戸大と連携して勉強
- 空きスペースの活用
- コミュニティビジネス立ち上げの支援、マルシェなど
- 議員や市長との懇談（対面、オンライン）
- 一緒に地域の課題を考える「未来会議」の開催

意見交換：JR篠山口駅周辺での「子育て環境づくり」とは??

兵庫県立大学・高田先生の司会で、ママや高校生の声を子育て環境づくりにどう活かすか?を話し合いました。

駅についてのママの声（ママに聞いてみました）

- きれいなキッズスペース
- 子連れOKなご飯屋さん・カフェ（お座敷のあるカフェ）
- 電車がみえるカフェ
- おむつ替え、授乳スペース
- 土日、雨の日でも遊べる施設
- 公園があってゆっくり過ごせる場所
- 今の駅には「何もない」というイメージ
- あまり利用しないのでわからない
- 子育て世代はあまり電車を利用しない
- 駅周辺が魅力的（かわいい）になると集まる
- 子育てをする世代に選ばれる場所をすること、お母さんたちが集まりたい場所をつくること

高校生の声：駅のこと・・・

- 電車が1時間に1本で、夏は暑く、冬は寒く、待合室が狭い
- 駅まで遠いと交通手段がない
- 駅は学校に行くためだけに使う、駅での待ち時間をどのように過ごすか
- インベションラボは大きな声でおしゃべりできない他の駅では、通学以外（カフェ、カラオケ、美容室など）に目的がある
- 駅周辺に雨の日に子どもが遊べる場所（施設）があれば
- 高校生はお金がないので、ドリンクの値段が高いと使えない、コーヒーだけでなく、ドーナツやフラペチーノなどもあれば

駅周辺の環境整備を考える

- 住民、来訪者などいるんなニーズがある
- どこにターゲットを定めて整備していくかが大手
- 基本的には住みやすい環境、住んでいて楽しい場所、住んでいる人を大切に作るまちづくり
- 駅を核として市内を観光できるような拠点としての役割
- 官民連携で店を出したくなるような環境整備
- 駅の通路も活用しながら滞在できる場所を
- 駅周辺に楽しみの小さな選択肢があって交流できることが大切
- 子育て世代、学生を大切にしていると、まちも持続可能に
- 「1時間過ごすことのできる駅」を目指す

味間全体での子育てを考える

- おとわの森の活用を検討する
- 小学生以上の子どもをもつ親のサポートをどうするか
- 地域のなかの世代間の交流をどのように実現するか
- お母さんたちが市内のいろんな場所を使いたいながら子育てできるような状況をつくるのが大切
- 児童館や保育園、学校などと連携して子育てのネットワークを構築することが大切
- まちづくりの議論を通して、住民、行政などが連携して子育ての方策を考えていけるように

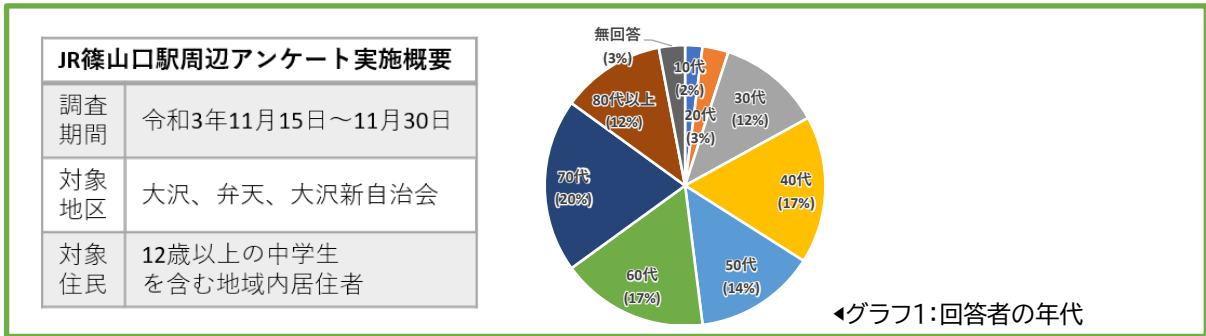
発行：JR篠山口駅周辺まちづくり会議
連絡先：事務局（丹波篠山市役所 まちづくり部 地域計画課）
電話079-552-1111（内線243） FAX079-552-0619

住民アンケート(JR篠山口駅周辺についての思い)

出典:味間地区まちづくり協議会アンケート

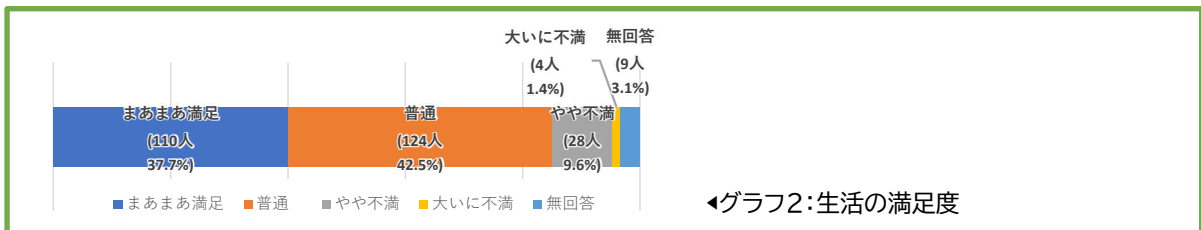
1. 実施概要

駅周辺住民の意見を年代に偏りなく得ることができました。



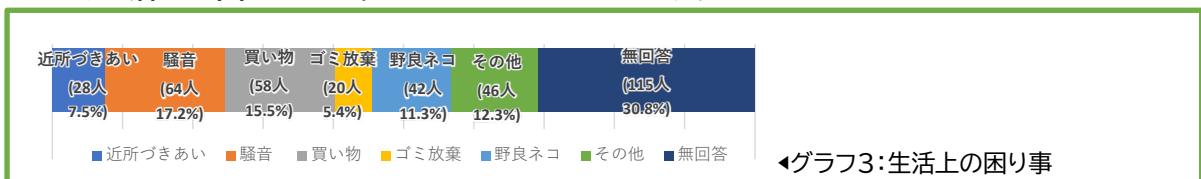
2. 生活の満足感

『まあまあ満足』が37.7%、『普通』を含めると、80.2%となっており、生活の満足度がかなり高い地域であることがうかがえます。



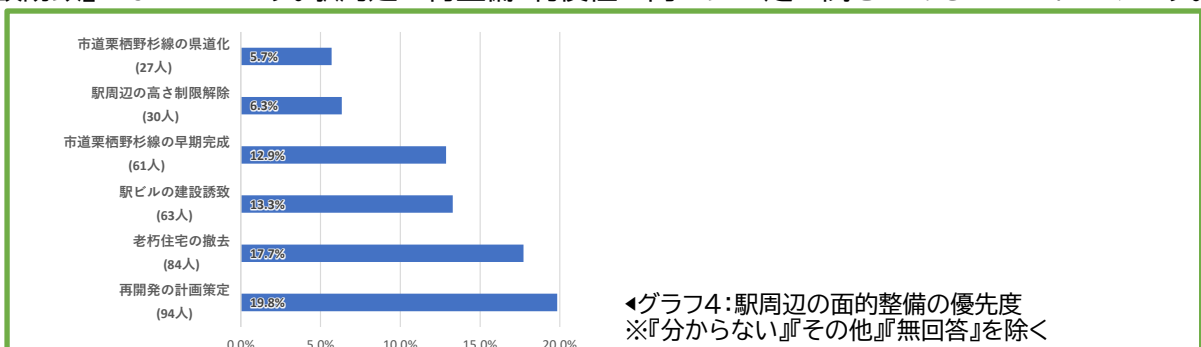
3. 生活上の困り事

生活上での困りごとでは『騒音』が最も多く、次いで『買い物』となりましたが、無回答が3割と多いのは、生活上に困りごとが少ないともとらえられます。



4. 駅周辺の面的整備

駅周辺の面的整備の優先度では『再開発の計画策定』が最も多く、『老朽住宅の撤去』『駅ビルの建設誘致』となっています。駅周辺の再整備・利便性の向上に一定の関心があることがわかります。



参考 3

関西大学 学生からの提案

JR 篠山口駅周辺の活性化に向けて、関西大学環境都市工学部建築学科住環境デザイン研究室の学生が駅周辺のまちづくり提案を行いました。提案内容を基に駅周辺の将来を考える発表会を開催し、発表会では、まちづくり会議メンバーやまちづくりの専門家が参加し、提案に対する講評を行いました。

駅前整備の提案
を発表！



どの班も模型を
製作、みなさん
感心しておられました



関西大学岡先生
がコメント



みんなで車座に
なって意見交換

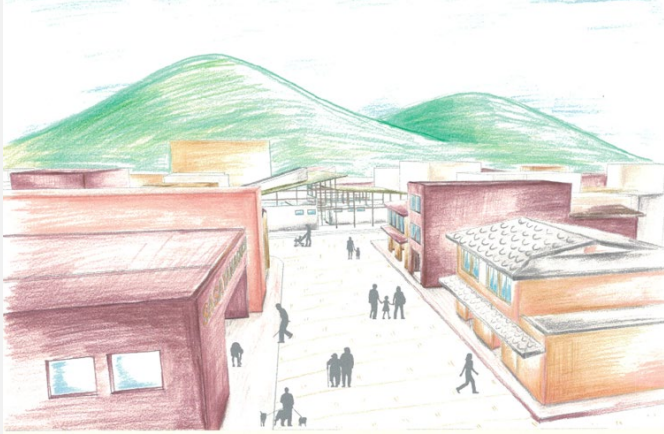


JR 篠山口駅での展
示風景

「JR 篠山口駅 リ・デザインコンペ」 - 学生提案内容 -

1班:「 篠山口 」

地域住民の「山と暮らす日常」と観光客の「山に触れる非日常」の2つの視点から篠山口駅を提案



2班:「 ふろーかる 」

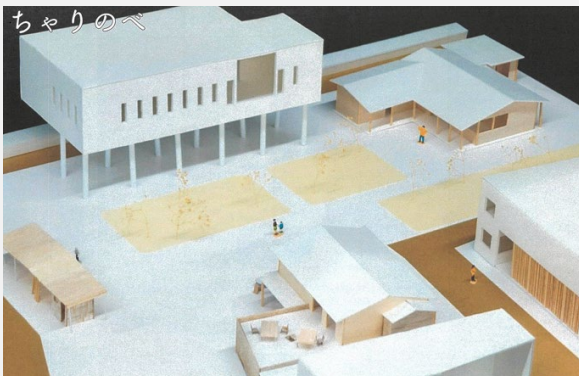
駅前に新たに銭湯を設け、そこを拠点ににぎわいのある駅前空間を提案

ふろ〜かる —風呂でつながるみんなの輪— 柏倉・河田・田中・宮井



3班:「 ちゃりのべ 」

自転車に関連するコンテンツを軸にした駅前空間を、にぎわい・ビジネス性を視点を提案



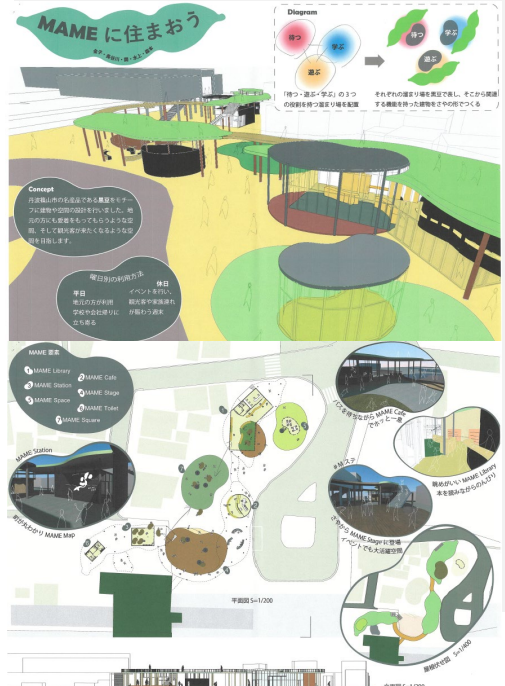
4班:「 森の駅 篠山 」

「篠山の自然を見せる」をコンセプトに、駅舎・駅前に篠山の自然を取り入れたデザインを提案



5班:「 MAME に住まおう 」

「黒豆」をモチーフに駅前の空間を、待つ・学ぶ・遊ぶ、の3つのゾーニングでデザイン



1班:「 篠山口 」

○提案のポイント

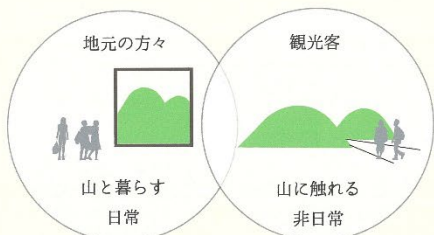
山に囲まれている駅の特徴を活かして、地元の方や観光客が集まる「まちの拠点」にする提案で、待合所、銭湯、飲食店兼体験施設、図書館を核としている。

篠山口

今村 南 伊藤 村井

1. 篠山口の魅力 -Concept-

山に囲まれている篠山口



日常のふとした瞬間に山が見え、生活の一部として山を捉える
篠山の自然豊かな山でトレッキングやバードウォッチングなどの非日常を味わう

篠山口というまちを地元の方々と観光客で賑わうまちに



2. 篠山口“駅”のこれから -Vision-

篠山口駅を地元の方々と観光客が集まるまちの拠点に

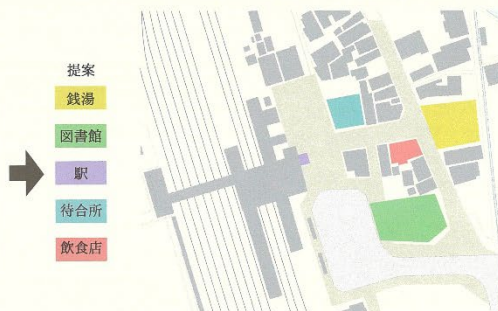
地元の方々		観光客
仕事・学校帰りに一息	銭湯	トレッキング終わりに一風呂
学校帰りのお勉強	図書館	お風呂上がりに読書タイム
通勤通学に	駅	篠山口の玄関
電車やバスの待ち時間に	待合所	トレッキング前のルート確認に
地元の美味しいものを食べる	飲食店	篠山の特産品を知ってもらおう

駅周辺に誰でも使える施設を計画



3. 篠山口駅の軸 -Process-

現在南側に寄っている軸を北側に戻し、駅の自由通路の軸に合わせる。



操作

- 軸に沿ってメインロードを整備し、ロータリー側と歩車分離を行う。
- …歩行者道路
- 駅の自由通路を東側に延長し、メインロードに向けて階段をおろす。
- …延長した自由通路

コメンテーターから

- 駅舎から東側に向けて通路を増設し、街の「見え方」と「人の流れ」を変えるアイデアはとてもよいと思いました(ロータリーの北側が活かされる)。
- 山との関係をもっと掘り下げるとよいし、計画にも活かそう(散策ルートの図示、地元的生活のかかわり、木質化、眺望など)。公共空間や各建物とのつながりをもっと盛り込める余地がありそう。
- 駅の自由通路を延長してメインロードを設け、その先の銭湯につなげるのは良いと思いました。
- 図書館と銭湯を一緒に設計しても良かったのでは? 平日市民が利用するとしたらどんなメリットが?

4. 核となる4つの施設 -Plan-

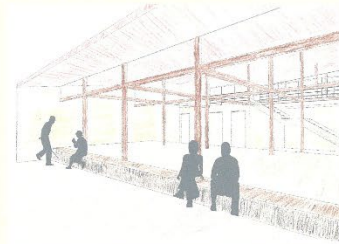


A. 待合所-タクシー会社のリニューアル-

トレッキング前後の観光客が駅周りの街並みと緩やかに繋がりながら、心や体を休めることのできる空間となっています。

B. 銭湯-新築-

館内に自然の光が入りやすくし、入浴後の休憩の場として景色を楽しむスキップフロアや縁側をデザインしました。



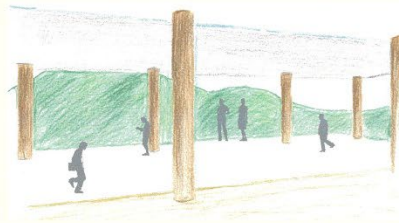
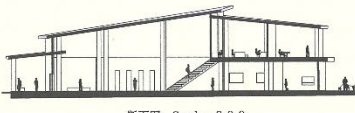
C. 飲食店兼体験施設-駐輪場のリニューアル-

体験コーナーで黒豆や黒豆茶を作り、そのままレストランで食べられます。メインロードから体験コーナーがよく見えます。



D. 図書館-新築-

図書館はバスの待合と一体になって地元の人々、観光客がゆっくりとした時間を過ごせる場所です。2階のテラスでは山を眺めながら読書できます。



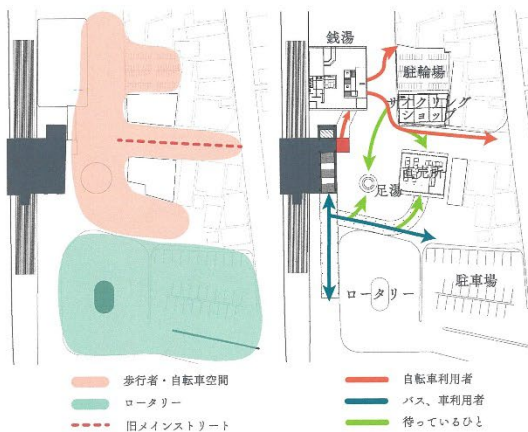
2班:「 ふろーかる 」

○提案のポイント

旧メインストリートを軸に歩行者・自転車中心の観光客、地元の人々、学生が入り混じる新たな拠点を再構築する提案。銭湯(えきまえ湯屋)やサイクリングショップ、直売所が提案された。



ゾーニングと動線



CONCEPT

かつてのJR 篠山口東口前メインストリートを軸に歩行者・自転車中心の観光客、地元の人々、学生が入り混じる篠山の新たな拠点を再構築する。現在から未来に向けた篠山口駅前空間の変遷とともに提案を行う。

課題1：空き家の増加

駅周辺ではかつての宿泊施設が空き家となっており、現在は駐輪場として使われている空き家も多くある。

課題2：車中心の駅前空間

自転車や歩行者の歩く空間が少なく歩道のない道路や道路幅の広い車道が多いため、人のための空間が少ない。

敷地概要

東口前のかつてメインストリートと駅前ロータリーにかけた空間で、駅の南側・西側は大きな山に囲まれた緑の美しい景色が広がる。

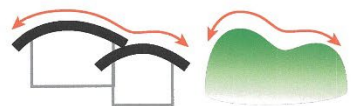


1F部分が駐輪場となっている元料亭



歩道のない道路

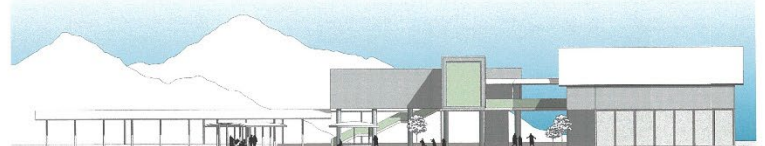
屋根の形



各建物や、駅からロータリーへつながるアーケードなどにアーチ型の屋根を作ることで、背景にある山との親和性を持たせ、駅前広場にいる間は山に囲まれたような空間を生み出す。

旧メインストリートを中心に、北側に道路幅拡張や駐輪場を設置し、歩行者・自転車中心の空間にする。南側には小さなロータリーと駐車場を整備することで、歩行者・自転車中心の空間と自動車・バスなどを中心とした空間を分離し、駅前空間に人が滞留することができる。

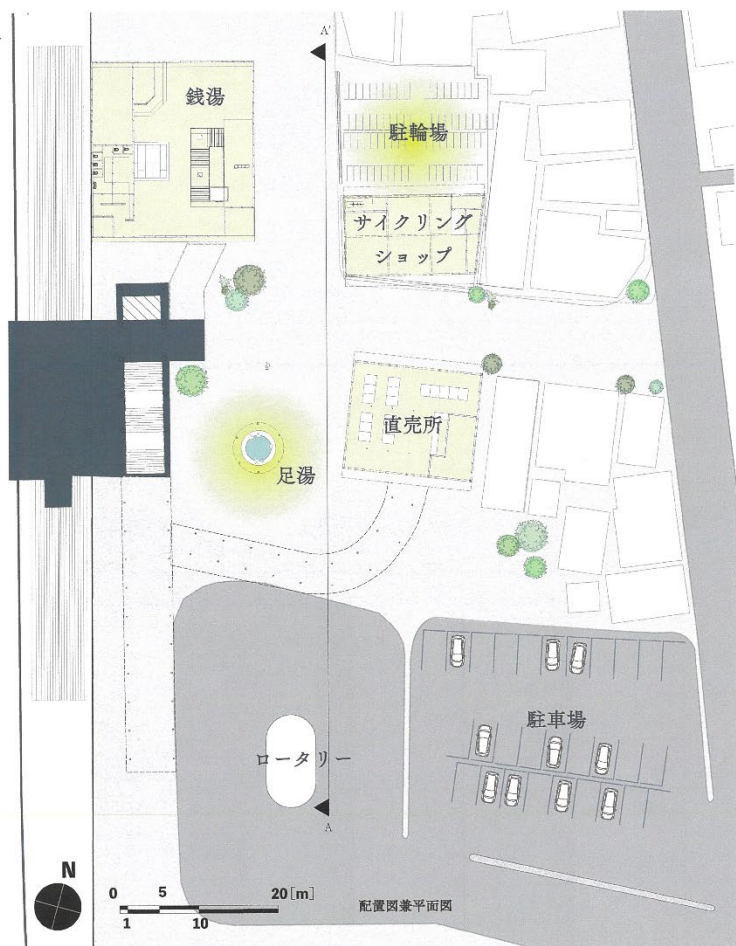
北側と南側の間に足湯や直売所を設置し、バスを待っている観光客や、放課後の高校生などが集う場所となる。



A-A' 立面図 S=1:100

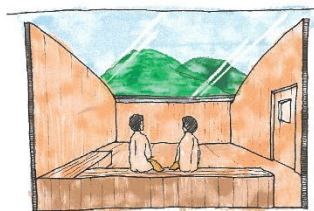
コメンテーターから

- ・銭湯は今の学生さんのニーズにも合っているのか？掘り下げると駅の新しい機能として可能性が出そう。
- ・生活空間として駅前・お風呂・ゲストハウスが整備されれば、登山・農業体験とも親和性がありそう。駅前の銭湯は良い発想。
- ・①提案内容の実現、②周辺の賑わい、③歩行空間の形成の3段階を想定して街の移ろいをプレゼンしたのは希望がもててよいと思います。
- ・動線が実現可能な形で考えられている。いい駅前広場になりそう。
- ・2階から直で入れるお風呂は魅力。出張から電車帰ってきて、ひと風呂浴びて帰るのは良い。



えきまえ湯屋

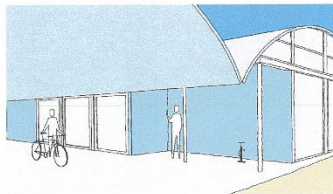
周辺の美しい山々を望みながらサウナに入ることのできる銭湯。2階は駅から直通で建物へ入ることができ、1階は駅前広場に開かれたカフェになっており銭湯から出てきた人や学生が集う場所になる。



3階のナツナから山を見ている様子

サイクリングショップ

現在駅前にあるレンタサイクルを撤去し、現在のタクシー会社跡に、新たな笹山口の観光拠点となるサイクリングショップを提案する。隣接する駐輪場の管理もサイクリングショップが行い、駐輪場利用者の自転車もメンテナンスなども行うことで地域の方との交流が生まれる。



サイクリングショップでの交流

駅前空間のうつろい

Phase 1 出来立て



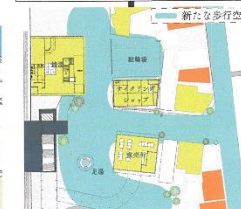
三つの提案が地域拠点になる

Phase 2 空き家が宿泊施設



三つの地域拠点を中心に、周囲に施設が増える

Phase 3 歩行空間の拡大

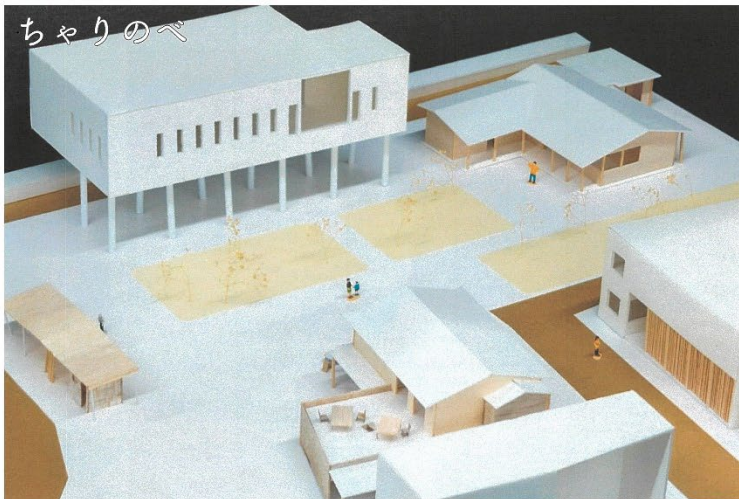


トンネルの開通とともに前面道路が歩行空間となる。

3班:「 ちゃりのべ 」

○提案のポイント

まちに仕事があり、利用するお客さんがいることで、経済が成り立ち活気が出てくる、というシナリオで、サイクリストをターゲットに活性化の第一歩として、待合所や直売所で賑わいを広げる提案内容。



01- はじめに

篠山口駅東口はもともとロータリー部分ではなく、北側の道にまちの中心があった。まちに人を呼ぶためにはそこに仕事があり、利用するお客さんがいることで、経済が成り立ち活気が出てくる。

本提案では建築に入り込む要素が相互に刺激し合い育っていくまちづくりを既存建物のリノベーションと2つの新築が駅前広場を囲むような構成で設計をおこなう。

03- 自転車ビジネス事例

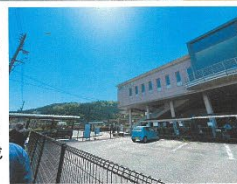
-ペダル発電のモバイル充電ステーション- (BRIDGESTONE)
自転車のペダリングエネルギーを利用して、モバイルデバイスや電子機器を充電するステーションを提供。



-ペダルを漕いで編み物をつくる- (鳥精機製作所)
自転車をこいで世界にひとつだけのオリジナルニットやデザインしたオリジナルのマフラーやクッションカバーを編める。



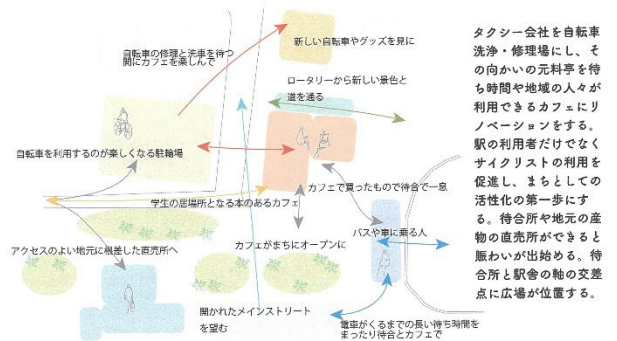
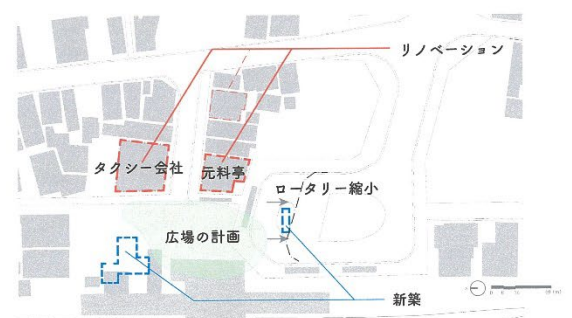
- 自転車を洗浄・修理するサービス - (ラバレッジ)
自転車を専門に洗浄をおこなう。隅々まできれいになった自転車で帰り道につくことができるようにする。



計画地の現状

02- 篠山口駅東口の現状と計画案

山本・福井・吉羽・和田

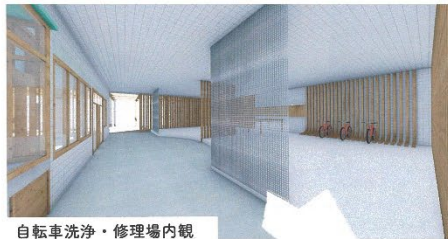


コメンテーターから

- サイクリングをもっとニーズや行動をとらえてビジネスとしての可能性を追求していけばよい。エリアインベーションのテーマとしてもよいかも。
- 動線計画をもう少し整理すると、なお良くなると思います。
- (東急ハンズにあるような)質のいい空間として自転車の預り所はもっと他の用途(ショップ、カフェ、ワーキングスペース)と複合的に使えるのではないのでしょうか？
- サービスをシェアしていくなど新しい運営の仕組みを考えていけるとよい。



直売所内部から広場を見る

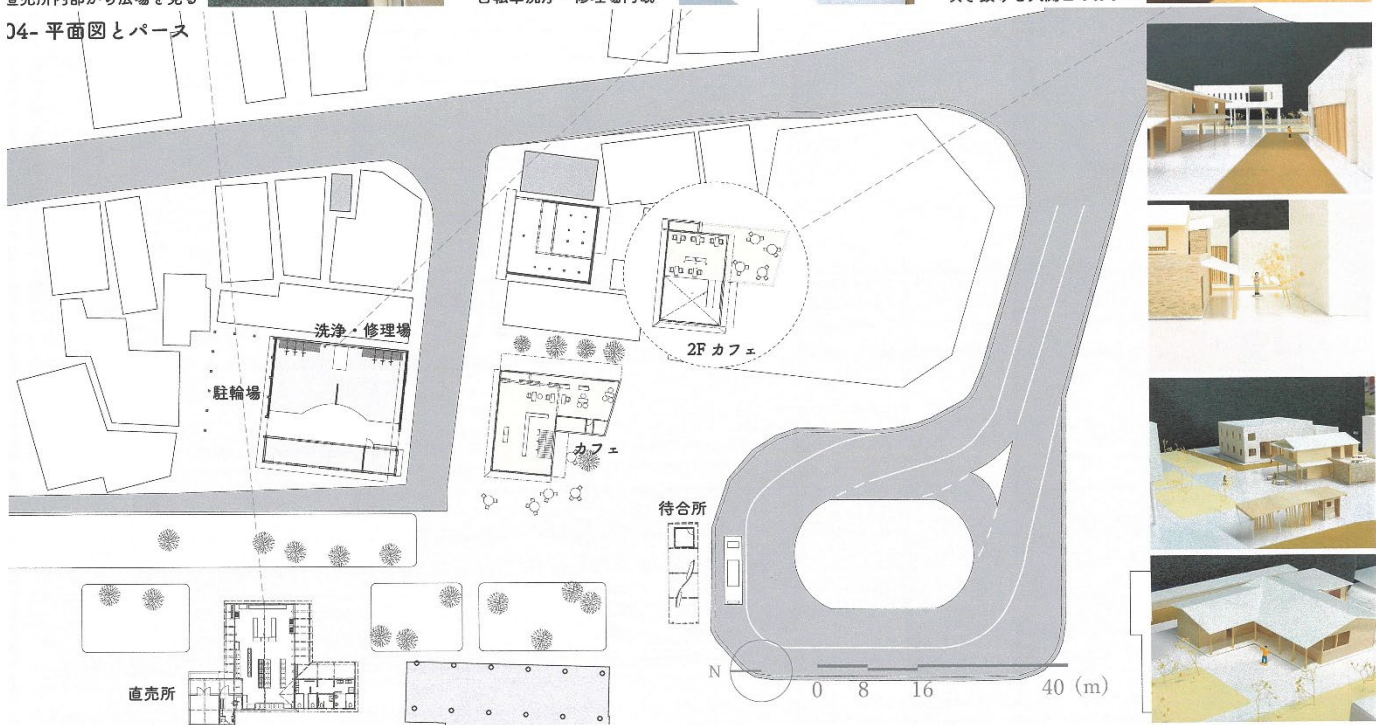


自転車洗浄・修理場内観



吹き抜けと大開口のカフェ

J4- 平面図とパース



4班:「 森の駅 篠山 」

○提案のポイント

「篠山の自然を見せる」をコンセプトに、駅周辺からの眺望景観を大事にし、山々を見ながら観光客や地域の方が滞在できる緑の広場を駅東側につくる提案。



Concept

篠山の自然を見せる
 篠山口駅駅舎のコンセプトである「篠山の山々を見せる」を東口でも表現する。
 篠山口駅周辺では駅から美しい山々が見えるように景観計画により建物の高さが制限されている。駅西側が整備され、現在は町の中心となっている中で、低い建物が立ち並び東側で山々が見渡せるような提案を行う。
 観光客や地域の方が山々を見ながら滞在できるような空間を考え東側に再び活気をもたらす。

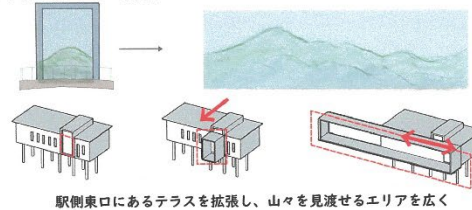


現状と分析



Diagram

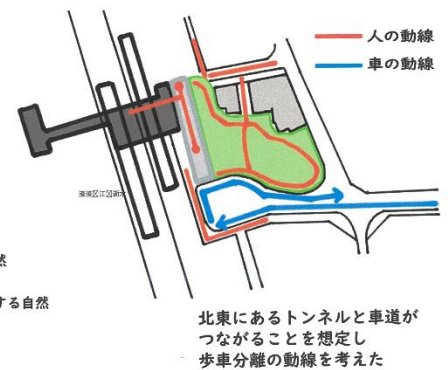
1. 面を広げる・拡張



2. ロータリーを整備し広場をつくる



動線計画



コメンテーターから

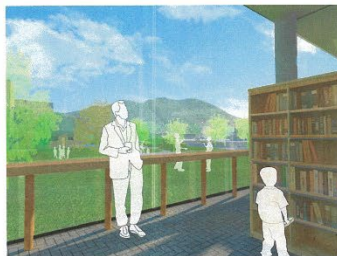
- ・駅舎を思いきってテラスに改修した案は他になかったので良い点だと思います。
- ・テラスを拡張するシンプルな操作ですが「風景を見せる」というメッセージがよく伝わり、このカフェを利用してみたいと思わせる設計だと思います。
- ・広場は必要と思いますが、木を植える事は後々のメンテを考えると芝生広場が良いのでは？
- ・より人が集まる場所とするために集客できる機能をどのように充実させるかがポイントでしょうか。
- ・駅から見る緑の山の景色はいいです！ゆっくり見られる休憩スペースが(ベンチが)あればいい。



全面ガラス張りのデッキから
両サイドにそびえたつ山々を眺める



周囲を見渡すカフェで
篠山の自然を感じながら一息



本を読みながら篠山の自然を感じる



広場で緑を感じる

5班:「 MAME に住まおう 」

○提案のポイント

名産品である黒豆をモチーフに、建物や空間を設計。地元の方にも愛着を持ってもらうような空間、観光客が来たくなるような広場を提案。



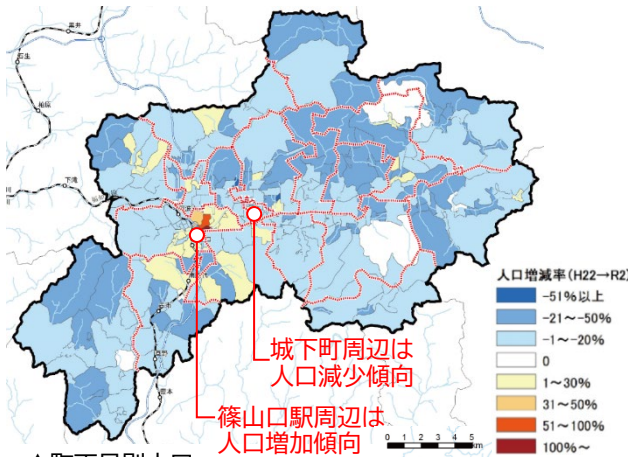
コメンテーターから

- ・小さいゾーン(豆)をつなげた空間デザインは良いと思いました。交換したり入れ替えたりできると良いのかも。利用のイメージもクリアでよい。運営をどうしていくか、にも考えがふくらむ案です。
- ・サヤとマメを常設と仮設としてマメを軽く設計できると、広場に多様な空間を生むことができるのでは。
- ・東側スペースを立体的(二層)で使うアイデアは独創性がありました。
- ・収納スペースなどを設置して「可変的」にスペースを使うことを想定しているのは、とてもよいと思いました。

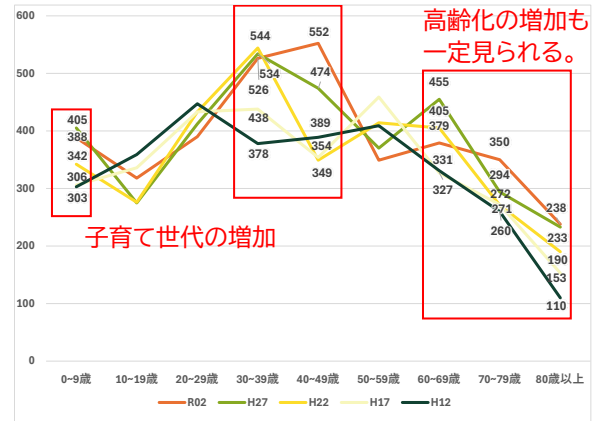


1. 人口

他地区では人口減少に関わらず、駅周辺人口は増加傾向にあります。高齢者の増加は一定見られるものの、10歳以下、30歳から50歳までの人口が増加傾向にあり、親子世代が増加していることが分かります。



▲町丁目別人口
(平成22年→令和2年の増加率) 出典:国勢調査



▲駅周辺における10歳階級別人口推移
(※駅周辺1km圏内の大沢、大沢新、杉、味間新、中野、牛ヶ瀬、初田、犬飼を対象とした) 出典:国勢調査

2. 乗降客数

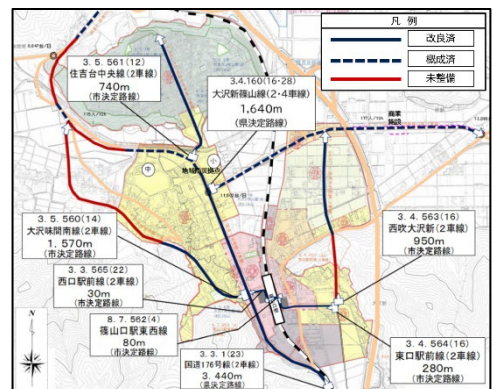
7,000人を下回った平成30年以降、乗降客の減少傾向が強くなっており、コロナ禍の影響でさらにその傾向は加速しています。



◀ JR 篠山口駅の乗降客数の推移
出典:国土数値情報

3. 上位計画での位置付けと土地利用

まちづくり・むらづくりの計画(都市計画マスタープラン)では、JR篠山口駅周辺は市内の主要な都市機能を担う「主核」として位置付けられています。現状では駅を含めて交通拠点としての重要な役割を担う一方で、有効な土地利用等がされているとは言い難い状況にあり、令和5年度の次期計画策定でその位置づけの充実が諮られました。丹波篠山市の玄関口として機能充実や土地利用増進を図る必要があります。都市計画道路整備を含めた計画が位置付けられています。



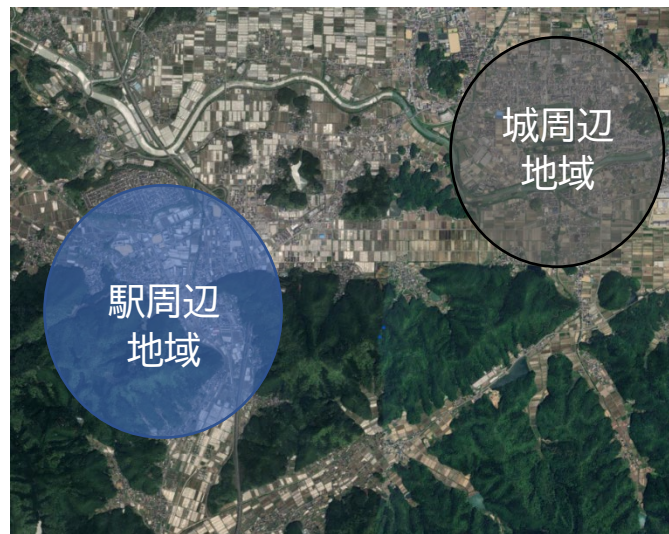
▲都市計画道路の計画と整備状況
出典:都市計画マスタープラン

4. JR 篠山口駅周辺のつよみと可能性(ワーキンググループ意見交換より)

ワーキンググループで、駅周辺のつよみと可能性について確認し、これらを活かしたまちづくりが望まれます。

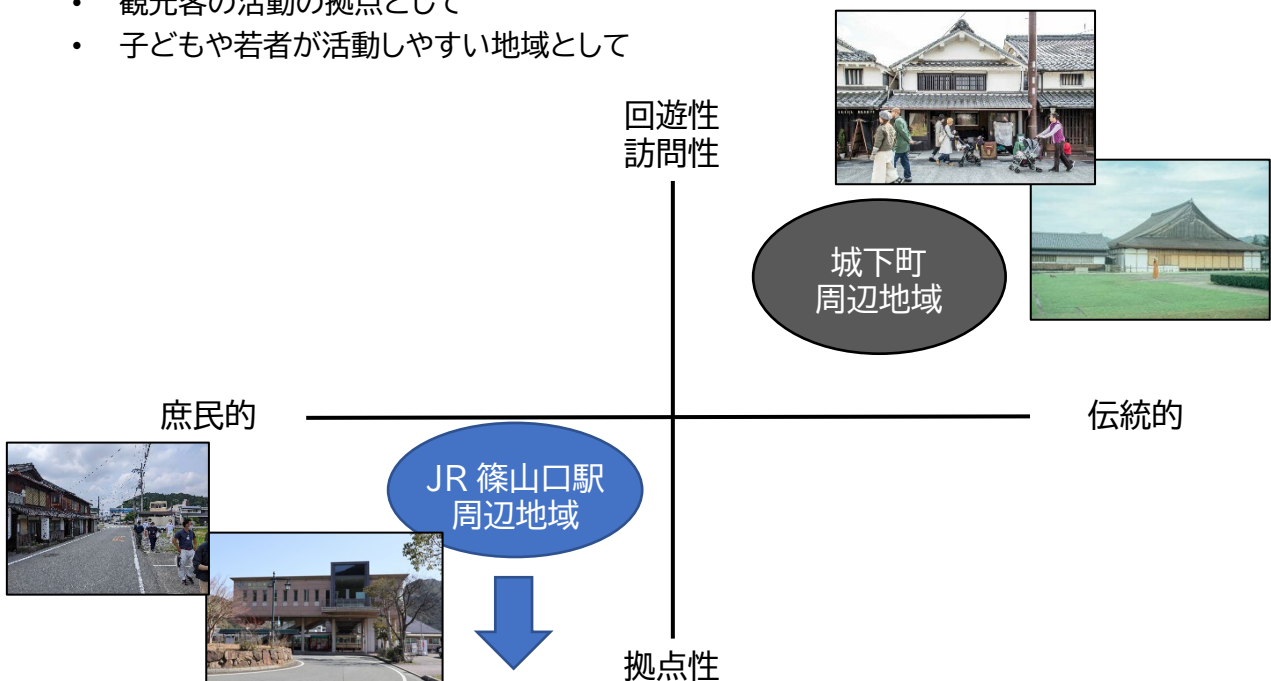
篠山口駅周辺のつよみ

- JR の駅前という立地から、三田、宝塚、大阪へのアクセス性が高い
- 丹南篠山口 IC とも近く、車利用者、鉄道利用者の両方にとって丹波篠山市の玄関口となっている
- 駅東側には「昭和なまちなみ」が残存している
- 駅西側には十分なオープンスペースがある
- 田松川周辺に豊かな自然が残っている



篠山口駅周辺まちづくりの可能性

- 丹波篠山市内に住む人にとっての移動の結節点として
- 味間地区住民および鉄道利用者の交流・滞留の場として
- 観光客の活動の拠点として
- 子どもや若者が活動しやすい地域として



参考
5

篠山口駅マルシェ

開催日時：2023年11月11日(土)10:00-15:00

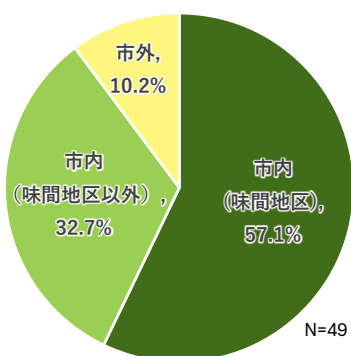
開催場所：篠山口駅とその周辺地域

来場者数：約1,500人

来場者は1,500人と多く、イベントの集客、来場者満足度、出店者満足度、地域にとって良い結果になり、イベントは成功したと言えます。駅前の賑わい創出、民家の活用提案など、目標としていた内容も達成することができました。一方で駐車場の確保などの課題もありました。

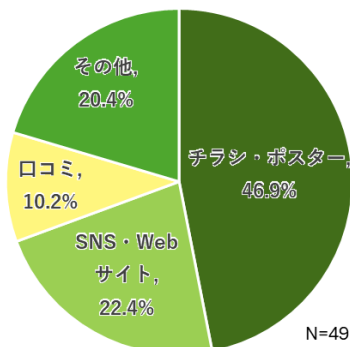


どこから来られましたか？



来場者の約9割が市内からでした。また、その内、半数以上が味間地区からの来場者でした。マルシェは地元の方で盛り上がったことが分かります。

何でお知りになりましたか？



来場者の約7割が、マルシェの広報活動によるものでした。特に、チラシ・ポスターは全体の半数を占め、一定の効果があったことが分かります。

JR 篠山口駅周辺まちづくりビジョン
2024 年(令和 6 年)8 月策定
JR 篠山口駅周辺まちづくり会議

